

## 様式第4 [ 基本計画標準様式 ]

基本計画の名称 : 川西市中心市街地活性化基本計画  
作成主体 : 兵庫県川西市  
計画期間 : 平成22年11月から平成27年3月まで

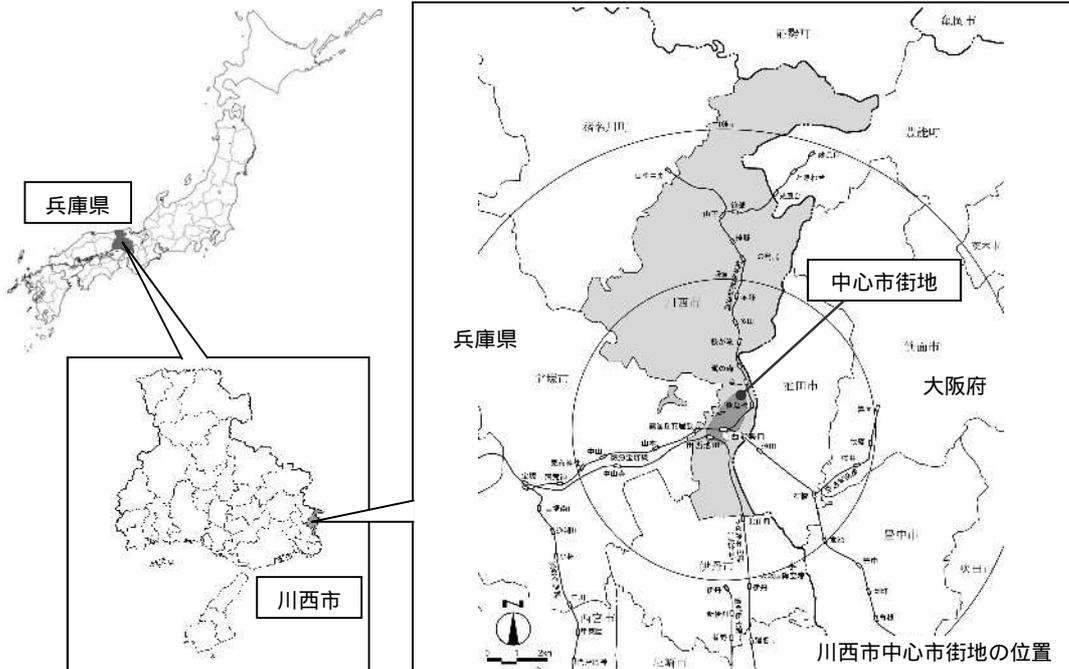
### 1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

#### [ 1 ] 川西市の概要

##### ( 1 ) 地 勢

本市は兵庫県の南東部に位置し、兵庫県の伊丹市、宝塚市、猪名川町、大阪府の池田市、箕面市、豊能町、能勢町の4市3町に接している。市役所からの直線距離では大阪市のJR大阪駅まで約16km、神戸市の中心部まで約27kmに位置する大都市近郊の住宅都市である。

市域は、面積が53.44km<sup>2</sup>で、東西方向に約6.5km、南北方向に約15.0kmと南北に細長い地形になっており、市の南側の地域は、猪名川右岸に発達する段丘面と猪名川沿いの低地(沖積平野)から、北側の地域は、多田・山下の二つの盆地とそれを取り巻く丘陵からなっている。また、一庫付近から北側の地域は北摂連山系に属し、標高662mの妙見山をはじめ、400m以上の標高を持つ山が分布し、その一部は猪名川渓谷県立自然公園に指定されている。



川西市中心市街地

## (2) 歴史

本市の村落としての機能は、1400～2000年前の弥生・古墳時代に、加茂や栄根地区に集落が形成されたことにはじまり、古代には多田荘、小戸荘、久代荘などの荘園が設置された。清和源氏発祥の地である多田は、源氏発展の基礎を築いたところで、源満仲が創建した多田院は、現在多田神社として多くの参拝者を集めている。平安時代にはじまる多田銀銅山は、寛文年間にはその最盛期を迎え、特に山下町や下財屋敷が栄えた。徳川体制下の所領配置は時期によって相違はあるが、中・北部の旧多田村、旧東谷村地域の殆どは直領で、その中に三か村だけ多田院社領として存在していたのが特色である。これに対して南部の旧川西町地域は、大阪城代及び大阪定番代が領置する地域として17・18世紀を経過し、19世紀に入って久代村と久代新田を除く他の村々は、すべて一橋徳川家領に編入された。



多田神社御本殿（多田神社HPより）



多田神社拝殿（多田神社HPより）

市制町村制の発布を経て、明治22年4月に川西村、多田村及び東谷村が発足した。南部の川西村では、明治26年に摂津鉄道（現在のJR福知山線）が池田（現在の川西市小花）まで敷設され、同30年にこれを買収した阪鶴鉄道が路線を変更し、同31年に大阪から有馬口までの直通運転を行った。明治43年には箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）が開通し、さらに大正2年には能勢電気軌道（現在の能勢電鉄妙見線）が開通し、能勢妙見山への参拝の交通の便が確保された。これら交通機関の発展に伴い、川西村は次第に発展し大正14年10月には町制を施行、そして昭和29年8月、町村合併促進法に基づき、川西町、多田村、東谷村が合併して市制を施行し今の川西市が誕生した。

## (3) 自然

本市は、南部段丘崖緑地や大規模住宅団地周辺の豊かな緑、一庫ダム周辺の北摂連山系の山並みや、水面に映える緑豊かな知明湖の一带など、自然的資源に恵まれた都市である。とりわけ、本市を南北に縦貫する一級河川猪名川は、猪名川町の山岳地帯に源を発し、田尻川、一庫大路次川、塩川、芋生川、最明寺川などを合流して大阪湾に注いでおり、まちのシンボルとなっている。



知明湖

## (4) 文化

本市では、文化会館やみつなかホール、ミュージアムスポアール、郷土館などの施設があり、優れた芸術作品の鑑賞の場として、また活発な芸術・文化活動の場として多くの市民に利用されている。また、旧石器・縄文時代から、古代、中世、現代に至るまで数多くの埋蔵文化財や歴史資産を保有する悠久の歴史と、創造性あふれる市民文化が蓄積する文化の彩りに満ちている。



みつなかホール

### (5) 大阪のベッドタウンとしての良好な住宅都市の形成

本市は、秩序ある市街地を形成し、都市の健全な発展を目指して、都市計画法などの法令を適正に運用するとともに『川西方式』といわれる「開発行為等指導要綱」に基づき、開発の適正な規制・誘導を行ってきた。

今後のまちづくりにおいては、計画的で特色あるまちづくりを推進するため、引き続き「開発行為等指導要綱」の適切な運用を行う。また、地域住民が各地域の固有の自然、歴史、街なみなどを生かしたまちづくりを推進するため、地区計画制度の活用を図るとともに、建築協定が締結されている35地域（平成15年3月末時点）についても地域住民の合意形成を図りながら、順次地区計画制度への移行を支援する。

地区計画一覧

地区名	計画決定年月日	面積(ha)
信和川西ニュータウン	平成9年3月17日	76.5
中央地区	平成10年12月25日	32.0
グリーンエステート日生中央	平成12年3月8日	1.0
阪急日生ニュータウン	平成12年9月4日	110.9
ファミリータウン清和台	平成13年3月23日	6.4
鷺が丘地区	平成13年6月28日	11.6
大和東2・5丁目地区	平成13年12月25日	9.3
南野坂地区	平成15年3月24日	18.5
多田院地区	平成16年3月30日	7.3
多田グリーンハイツ(水明台)	平成16年12月15日	63.5
多田グリーンハイツ(向陽台、緑台)	平成17年4月28日	158.9
大和東1丁目地区	平成18年7月7日	29.4
見野2丁目地区、大和西1丁目地区	平成20年2月15日	6.5

資料：川西市 都市計画課

一方、本市の中北部地域の住宅団地は既に約40年が経過しており、住宅団地内の施設は古く、また世帯の少子高齢化が進んでいる。さらに、社会経済状況の変化により、市全体の活力が低迷している。

### (6) 駅周辺都市整備計画基本構想によるまちづくり

本市南部に位置する川西能勢口駅周辺地区は、阪急電鉄宝塚線、能勢電鉄妙見線、JR福知山線、阪急バスなどの公共交通機関が集中していることや、大阪の中心部に近く利便性が高いことなどから、昭和36年頃から住宅建設などによるまちのスプロール現象がはじまり、幅員の狭い道路に低層木造住宅が密集するなど、住環境はもとより、防災面でも問題のある市街地を形成した。

こうした問題を解消するために、昭和48年度に「駅周辺都市整備計画基本構想」を策定し、全国に先がけて市街地再開発事業などを積極的に実施し、市の中心部にふさわしい新しいまちづくりに取り組んでいる。しかし、駅周辺都市整備計画基本構想の主な事業は完了したものの川西能勢口駅東地区の一部については、事業化に至っていない地区があるため、駅前でありながら用途が混在した木造建築物の密集地が存在している。

### 【川西市の概要のまとめ】

本市は、大阪市や神戸市などの大都市に近く、北摂連山や猪名川渓谷などの緑と水に恵まれた自然豊かな住宅都市である。

本市中部の多田院は、清和源氏発祥の地として源氏発展の基礎を築くなど、市内には歴史的建造物が点在している。

市内には、文化会館や音楽ホール、郷土館、ギャラリーなどがあり、活発な芸術・文化活動の場として多くの市民に利用されている。

本市中北部には、「開発行為等指導要綱」に基づき、宅地開発された緑豊かで閑静な住宅団地が多く存在している。

市内には、阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線、JR福知山線が通り、公共交通機関の利便性が高く、多くの通勤・通学者が利用している。

本市南部の川西能勢口駅周辺では、全国に先がけて、多数の市街地再開発事業が実施され、大型商業施設や高層マンションが建ち並んでいる。

## [ 2 ] 中心市街地の概況

### ( 1 ) 中心市街地の概況

本市の中心市街地は市南部に位置し、阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線川西能勢口駅とJR福知山線川西池田駅が立地し、鉄道やバスなどが集中する公共交通機関の結節点であることから、大阪市中心部や神戸市方面への交通の利便性が高く、川西能勢口駅周辺には昭和36年頃から用途混在の木造建築物が建ち並ぶなど、駅前に密集市街地を形成した。

本市では、新しいまちづくりの指針として、昭和48年度に「駅周辺都市整備計画基本構想」を策定し、阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線連続立体交差事業や都市計画道路の拡幅整備、市街地再開発事業などのまちづくりを推進してきた。これらの事業により、都市基盤施設が整備されるとともに、川西能勢口駅周辺には阪急百貨店を核店舗とするアステ川西、モザイクボックス、駅舎内のベルフローラかわにしなどの大型商業施設が営業を開始したほか、業務ビル、高層マンションが建ち並んでいる。

#### 中心市街地内の大規模小売店等

施設名	開店年月	売場面積等	主な用途	活用した事業名
ジャンボスクエア川西	昭和49年4月	8,066㎡	量販店	民間事業
パルティ川西	昭和60年6月	1,048㎡	住宅、専門店、飲食店	市街地再開発事業
アステ川西	平成元年4月	28,545㎡	百貨店、専門店、飲食店 図書館、多目的ホール	市街地再開発事業
ビッグボックス	平成3年4月	—	駐車場(675台) スポーツ施設、遊戯施設	優良再開発建築物整備促進事業
シャンテ川西	平成8年2月	—	住宅、専門店、音楽ホール	市街地再開発事業
モザイクボックス	平成8年4月	12,084㎡	専門店、飲食店	市街地再開発事業
ジョイン川西	平成11年9月	—	住宅、公共施設	市街地再開発事業
ベルフローラかわにし イースト	平成11年11月	2,950㎡	専門店、飲食店	連続立体交差事業
ベルフローラかわにし ウエスト	平成11年11月	2,560㎡	専門店、飲食店	連続立体交差事業

資料：川西市 市街地・空港周辺整備課

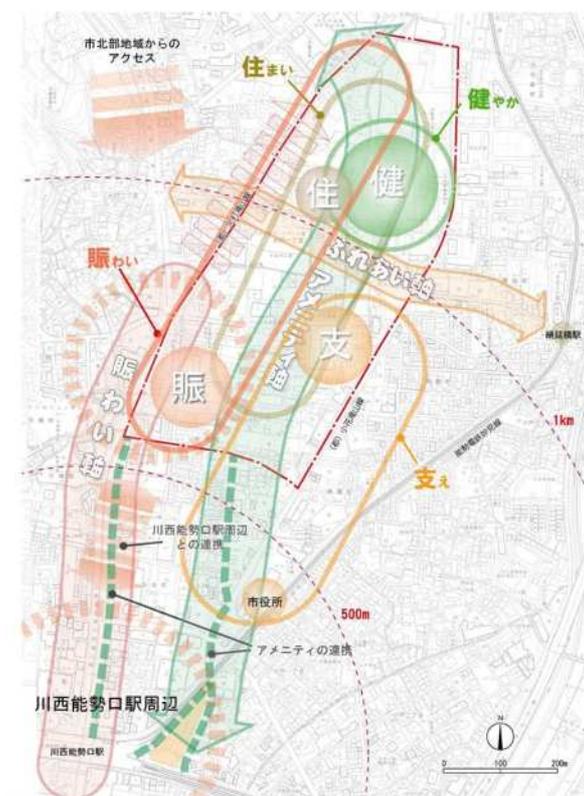
川西能勢口駅周辺の新しいまちづくりにより、中心市街地は複数の再開発ビルが集中的に立地するまちとして全国の注目を浴びたが、その後の右肩下がりの経済情勢、阪神・淡路大震災の影響、公共施設などの郊外への分散や大型商業施設の郊外進出などに加えて、少子高齢化が進んだことや、まちの個性や魅力が少ないこと、商業施設の老朽化が進んだことなどの影響に

より、まちの商業活力が低迷している。また、川西能勢口駅東地区第2工区の市街地再開発事業は、社会経済状況の変化により事業化が遅れている。

一方、駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38ha）の北に隣接する約24haの中央北地区では、平成10年に住宅街区整備事業を都市計画決定し、同年に設立した川西市中央北地区住宅街区整備準備組合が中心となってまちづくりを進めてきた。しかし、長引く厳しい社会経済状況の変化などの影響から実現に向けた進展はなく、地区の現況や本市の中心部に求められる社会的要求の変化から、これまでの計画に基づくまちづくりの実現は困難な状況となっていた。

そこで、平成14年度には、準備組合が設置した「川西市中央北地区整備計画調査検討委員会」から、「環境との共生による水と緑豊かな環境形成」と「安心して住み続けられるふるさとづくり」をテーマに、新しい地域交流拠点となる複合都市核形成を目的とした「まちづくり提案」が示された。その後、平成19年度には「中央北地区土地利用基本構想」を作成した。

#### 土地利用の基本的な考え方



川西市中央北地区土地利用基本構想  
(平成19年度)より

## (2) 中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況の分析及びその有効活用の方法の検討

### 1) 歴史的・文化的資源

中心市街地周辺には清和源氏発祥の地として源氏に纏わる歴史的資源や、古くからの史跡である加茂遺跡や勝福寺古墳が存在している。また、兵庫県の県指定文化財の天然記念物である大クス(樹齢約500年)が境内にあり、市民に親しまれている小戸神社などが分布しており、街なかの緑の空間として、居住者や市民の憩いの場となっている。

さらに、中心市街地には芸術・文化を楽しむ、にぎわいを創出する施設が多く集積しており、音楽ホールとして利用されるみつなかホール、寄席や音楽コンサートなどが開催されているアステホール、さらに展示場などに利用される市民ギャラリーなどが点在している。

中心市街地の活性化にあたっては、これらの史跡や施設と商業施設などを結び回遊・滞留するためのネットワークを構築する事業や情報発信により、市民や来街者が歴史に触れることや芸術・文化に参加することができる機会を増やすなど、当地区の歴史的・文化的資源を積極的に活用していく。



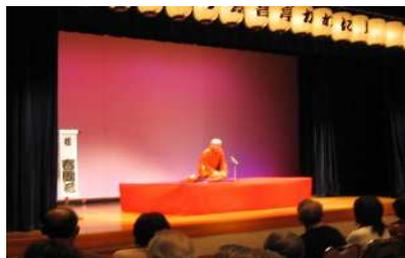
小戸神社



源満仲像



みつなかホール



アステホール

## 2) 景観資源

中心市街地周辺には、五月山や石切山など市街地の後背地として優れた緑の環境がある。また、一級河川の猪名川が流れているほか、中心市街地内には小戸疎水などのせせらぎも残されており、身近な場所で自然を感じられる資源や要素が存在する。

本市の総合計画「川西市こころ街計画 2012」において、「都心の再構築を中心とした既成市街地の整備」のために、猪名川の河川空間は「水と緑の軸」として活用していくことや、親水性空間などの整備と活用が示されている。

中心市街地の活性化にあたっては、これらの緑豊かな後背地や親水性空間を活用して自然に触れることができる中心市街地の形成など、当地区の景観資源を積極的に活用していく。

## 3) 社会資本・産業資源

中心市街地は阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線川西能勢口駅、JR福知山線川西池田駅が近接していることから利便性に優れ、これらの駅は路線バスの発着点でもあることから、多くの通勤・通学者や買い物客が訪れている。また、大阪以西で最初に阪急電鉄とJR線が交わる結節点であるため乗り換えに利用する乗降客も多い。さらに、中心市街地には公共・公益施設が広く分布しており、市役所、保健センター、文化会館、中央公民館、市立中央図書館、総合体育館、ふれあいプラザ、市民温水プールのほか、市民活動センターが設置されているパレットかわにしなどがある。

特に、中心市街地の中でも商業施設が集積する川西能勢口駅周辺地区では、これまで市街地再開発事業や連続立体交差事業などによる新しいまちづくりが進み、阪急百貨店を核店舗とするアステ川西やモザイクボックス、ベルフロラかわにしなどの大型商業施設、業務ビル、高層マンションが広く分布するまちとなっている。

中心市街地の活性化にあたっては、これらの公共・公益施設、商業施設などを結び、回遊・滞留するためのネットワークを構築する事業を展開し、中心市街地を魅力的でにぎわいのあるまちにするなど、当地区の社会資本・産業資源を積極的に活用していく。

**【中心市街地の概況のまとめ】**

中心市街地には、公共交通機関が結節しているほか、公共・公益施設、商業施設、文化施設、高層マンションなどが広く分布し、多くの市民が利用している。

近年の社会経済状況の変化や大型商業施設の郊外進出に加えて、中心市街地の個性や魅力が少ないことから、まちの商業活力が低迷している。

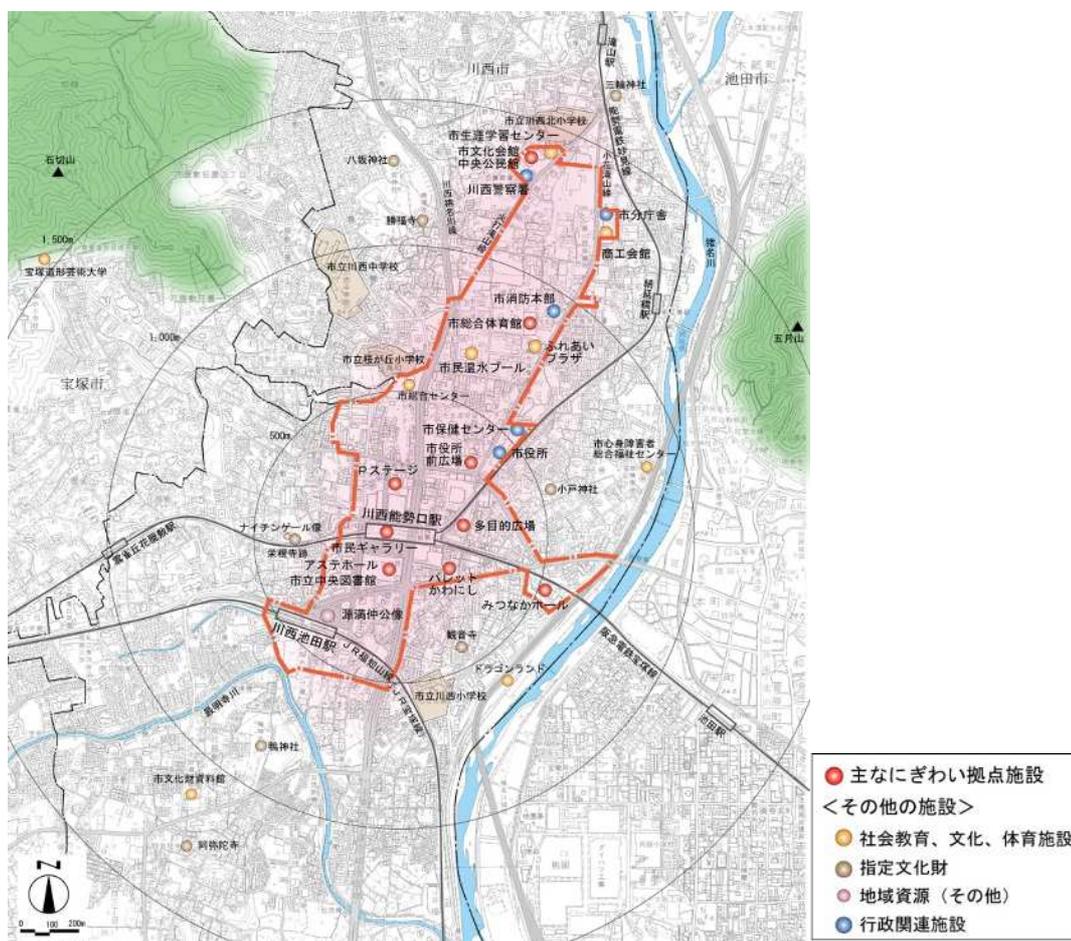
皮革工場跡の中央北地区では、新しい地域交流拠点となる複合都市核形成を目的としたまちづくりが進められている。

中心市街地には、歴史に纏わる資源と、芸術・文化に触れることができる施設など、歴史的・文化的資源が多く集積しており、これらの資源の有効活用により、歴史や文化に触れることができるまちづくりが求められている。

中心市街地周辺には、優れた緑の環境があるなど、身近な場所で自然を感じられる景観資源や要素が存在しており、これらの資源の有効活用により、自然に触れることができるまちづくりが求められている。

中心市街地には、公共交通機関や市民サービス施設などが充実しており、社会資本・産業資源が豊富であり、これらの資源の有効活用により、魅力的でにぎわいのあるまちづくりが求められている。

中心市街地周辺の概況



### [ 3 ] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

#### ( 1 ) 人口と世帯

##### 1) 人口と世帯

本市は、大阪市や神戸市方面への交通の利便性が高く、北摂山系の山々や猪名川溪谷の水資源などの自然にも恵まれ、北部の丘陵地帯に良好な住宅地が形成されるなど阪神間の住宅都市として発展しており、様々なまちづくり活動により、昭和 29 年の市制施行以来、人口と世帯数はともに増加している。また、中心市街地は、市街地再開発事業や民間開発による高層マンションの建設が進むなど、人口と世帯数についてはいずれも微増傾向である。

#### 人 口

人 口	平成 7 年	平成 17 年	比 率(平成 17 年 / 平成 7 年)
中心市街地	7,230 人	8,468 人	117.1 %
全 市	144,539 人	157,668 人	109.1 %
割 合	5.0 %	5.4 %	—

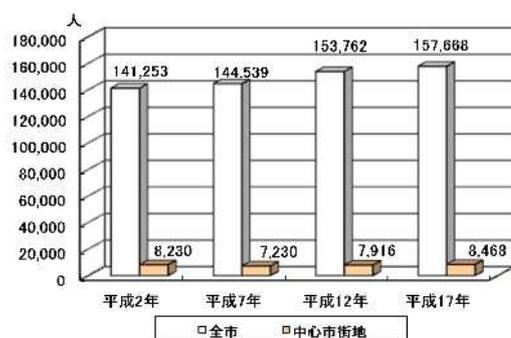
資料：国勢調査

#### 世帯数

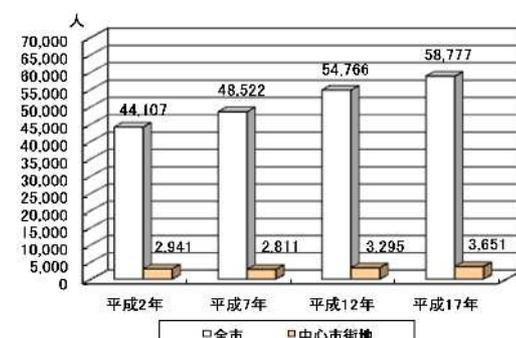
世 帯 数	平成 7 年	平成 17 年	比 率(平成 17 年 / 平成 7 年)
中心市街地	2,811 世帯	3,651 世帯	129.9 %
全 市	48,522 世帯	58,777 世帯	121.1 %
割 合	5.8 %	6.2 %	—

資料：国勢調査

( 人 口 )



( 世帯数 )



資料：国勢調査

中心市街地の人口は、平成 17 年が 8,468 人(全市は 157,668 人)であり、平成 7 年の 7,230 人(全市は 144,539 人)に対して 117.1%(全市は 109.1%)となっている。また、世帯数は平成 17 年が 3,651 世帯(全市は 58,777 世帯)であり、平成 7 年の 2,811 世帯(全市は 48,522 世帯)に対して 129.9%(全市は 121.1%)となっている。

#### 【人口と世帯の現状把握と分析のまとめ】

中心市街地は、市街地再開発事業による高層マンション建設や、民間マンション建設などの住宅供給が進み、中心市街地の人口と世帯数は、ともに微増傾向である。中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを積極的に推進し、居住者が住み続けたいと思うまちをめざし、さらに居住人口を増やすことが必要である。

## 2) 少子化と高齢化

本市の持ち家率は高く、定住指向が比較的に強いために世帯の転出は少ない。しかし、住宅都市であることから、大規模な都市圏への就職や結婚のために若い世代が市外へ転出する機会が多いため、北部の住宅地を中心に少子化と高齢化はともに進んでいる。中心市街地においても同様の傾向があり、少子化と高齢化はともに進んでいる。

### 少子化率

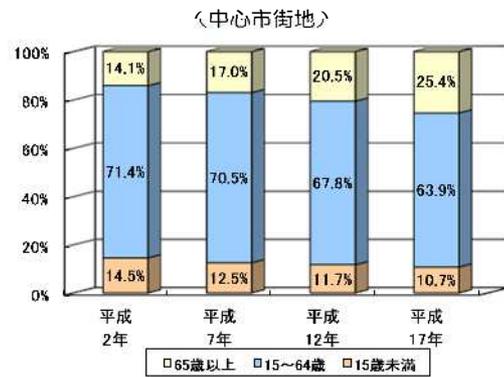
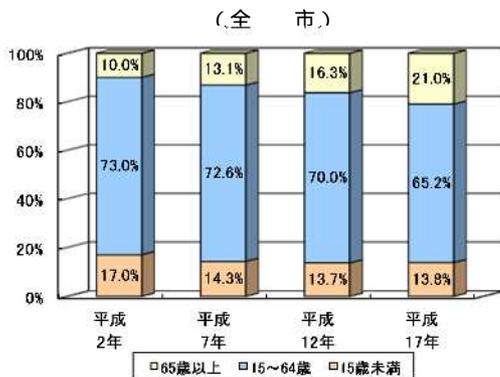
少子化率	平成7年	平成17年	増減
中心市街地	12.5%	10.7%	－(マイナス)1.8ポイント
全市	14.3%	13.8%	－(マイナス)0.5ポイント

資料：国勢調査

### 高齢化率

高齢化率	平成7年	平成17年	増減
中心市街地	17.0%	25.4%	＋(プラス)8.4ポイント
全市	13.1%	21.0%	＋(プラス)7.9ポイント

資料：国勢調査



資料：国勢調査

中心市街地における平成17年時点の15歳未満の年少人口比率が10.7%（全市は13.8%）であり、平成7年の12.5%（全市は14.3%）に対する増減は、－（マイナス）1.8ポイント（全市は－（マイナス）0.5ポイント）となっている。また、中心市街地における高齢化率は平成17年が25.4%（全市は21.0%）であり、平成7年の17.0%（全市は13.1%）に対する増減は、＋（プラス）8.4ポイント（全市は＋（プラス）7.9ポイント）となっており、中心市街地における少子化と高齢化は顕著である。

### 【少子化と高齢化の現状把握と分析のまとめ】

市民の定住指向は比較的に強く、主な世帯の転出は少ないことや、就職や結婚のために若い世代が市外へ転出する機会が多いなど、中心市街地の少子化と高齢化はともに進んでいる。中心市街地の活性化にあたっては、子どもたちや高齢者、障がい者などすべての人にやさしいまちをめざすことが必要である。

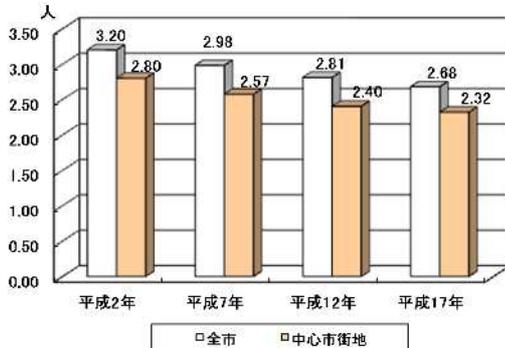
## 3) 平均世帯人員

全国的に世帯人員が減少する中で、本市においても世帯人員の減少が進んでいる。特に中心市街地は公共・公益施設や商業施設が身近にあることから生活しやすく、単身者や高齢者世帯が多いなど平均世帯人員は少ない状況である。

### 平均世帯人員

平均世帯人員	平成 7 年	平成 17 年	比 率(平成 17 年 / 平成 7 年)
中心市街地	2.57 人	2.32 人	90.3 %
全 市	2.98 人	2.68 人	89.9 %

資料：国勢調査



資料：国勢調査

中心市街地における平均世帯人員は、平成 17 年が 2.32 人（全市は 2.68 人）であり、平成 7 年の 2.57 人（全市は 2.98 人）に対して 90.3%（全市は 89.9%）である。

#### 【平均世帯人員の現状把握と分析のまとめ】

本市の世帯人員の減少は進んでおり、特に中心市街地は公共・公益施設や商業施設が身近にあることから生活しやすく、単身者や高齢者世帯が多いなど、中心市街地における平均世帯人員は少ない状況である。中心市街地の活性化にあたっては、共稼ぎ家庭が子どもを安心して育てることができるまちをめざすことが必要である。

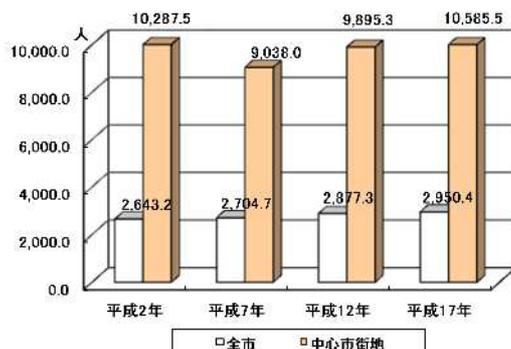
### 4) 人口密度

本市は昭和 36 年頃からの人口急増に加え、北部地域の大規模団地開発や、昭和 48 年度に策定した「駅周辺都市整備計画基本構想」による新しいまちづくりが進むなど、自然に恵まれた利便性の高い住宅都市として現在でも人口が増えている。特に、川西能勢口駅周辺が住宅密集地であったほか、最近では高層マンションが建設されるなど住宅供給が進み、北部の世帯が利便性の高い中心市街地に転居するなど、中心市街地の居住人口は増加している。

#### 人口密度

人口密度	平成 7 年	平成 17 年	比 率(平成 17 年 / 平成 7 年)
中心市街地	9,038.0 人/k <sup>2</sup>	10,585.5 人/k <sup>2</sup>	117.1 %
全 市	2,704.7 人/k <sup>2</sup>	2,950.4 人/k <sup>2</sup>	109.1 %

資料：国勢調査



資料：国勢調査

全市面積は 53.44k<sup>2</sup>

中心市街地面積は 0.80k<sup>2</sup>

中心市街地における人口密度は、平成 17 年が 10,585.5 人/k<sup>2</sup> (全市は 2,950.7 人/k<sup>2</sup>) であり、平成 7 年の 9,038.0 人/k<sup>2</sup> (全市は 2,705.7 人/k<sup>2</sup>) に対して 117.1% (全市は 109.1%) となっており、中心市街地の人口密度は全市平均の約 3.5 倍である。

**【人口密度の現状把握と分析のまとめ】**

中心市街地は、特に川西能勢口駅周辺が住宅密集地であったほか、最近では高層マンションが建設されるなど住宅供給が進み、中心市街地の居住人口は増加しており、中心市街地の人口密度は高く、全市平均の約 3.5 倍となっている。中心市街地の活性化にあたっては、住宅密集地での市街地再開発事業などにより、土地の高度利用と都市機能の更新をめざすことが必要である。

**5) 人口の流入と流出**

本市は住宅都市として発展しており、市内に事業所や工場などが少ないことから、通勤・通学者は公共交通機関や自家用車などで大阪市や阪神間、神戸市、その他の近隣市町へ流出している。主な流出先としては、通勤・通学者の合計で大阪市約 17,900 人、豊中市約 4,000 人、池田市約 4,000 人、伊丹市約 3,800 人、尼崎市約 3,100 人、宝塚市約 2,500 人などである。

一方、中心市街地は市役所などの公共施設や総合病院、事業所、商業施設などが立地しているため、15 歳以上の就業者が兵庫県の宝塚市、伊丹市、猪名川町、大阪府の池田市、豊中市などから約 13,200 人が流入している。

**流入・流出**

都 市 名	流入者数 (人)		流出者数 (人)		流入者数－流出者数 (人)		
	15 歳以上の就業者	15 歳以上の通学者	15 歳以上の就業者	15 歳以上の通学者	15 歳以上の就業者	15 歳以上の通学者	
兵 庫 県	神戸市	492	8	1,530	439	1,038	431
	尼崎市	878	10	2,839	237	1,961	227
	西宮市	778	7	1,090	507	312	500
	伊丹市	1,845	40	3,606	235	1,761	195
	宝塚市	3,002	37	2,148	376	854	339
	三田市	398	8	469	109	71	101
	猪名川町	1,869	241	1,445	103	424	138
大 阪 府	大阪市	753	18	17,021	879	16,268	861
	豊中市	1,015	6	3,721	271	2,706	265
	池田市	1,499	12	3,831	160	2,332	148
	吹田市	224	4	1,315	328	1,091	324
	箕面市	489	6	1,075	98	586	92
合 計	13,242	397	40,090	3,742	26,848	3,345	

資料：平成 17 年国勢調査

**【人口の流入と流出の現状把握と分析のまとめ】**

本市は住宅都市として発展しており、市内に事業所などが少ないことから、通勤・通学者は大阪市や阪神間、神戸市、その他の近隣市町へ流出しており、人口の流入と流出については約 3 万人の流出超過となっている。中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりのための様々な取り組みや活発な商業活動により、市内や近隣市町からの来街者の増加をめざすことが必要である。

## 6) 昼間人口と夜間人口

本市は、自然が豊富な大阪都市圏のベッドタウンとしての特色があり、市内に事業所や大学・私立高校などが少ないため、大阪市や阪神間、神戸市方面への通勤・通学者が多くなっている。このため、夜間人口の157,347人に対して、昼間人口は123,118人と昼間人口のほうが少なくなっており、昼間人口が夜間人口に占める比率は78.2%である。大阪市と神戸市以外は夜間人口が多くなっているが、兵庫県の宝塚市78.4%、西宮市87.9%、伊丹市91.5%、大阪府の箕面市84.5%、豊中市88.5%、池田市94.3%などと比較しても一番低い比率である。

### 昼夜間人口

都 市 名	夜間人口(a) (人)	昼間人口(b) (人)	比率(b/a) (%)	
兵 庫 県	神戸市	1,520,551	1,547,971	101.8
	尼崎市	458,155	440,151	96.1
	西宮市	462,689	406,892	87.9
	伊丹市	192,230	175,961	91.5
	宝塚市	217,662	170,623	78.4
	川西市	157,347	123,118	78.2
大 阪 府	大阪市	2,594,686	3,581,675	138.0
	豊中市	386,264	341,739	88.5
	池田市	100,201	94,510	94.3
	吹田市	351,480	343,219	97.6
	箕面市	126,807	107,137	84.5

資料：平成17年国勢調査

### 【昼間人口と夜間人口の現状把握と分析のまとめ】

本市は、大阪都市圏のベッドタウンとしての特色があり、昼間人口のほうが少なく、昼間人口が夜間人口に占める比率は78.2%である。中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりと、まちを回遊・滞留する様々な取り組みにより、昼間人口の増加をめざすことが必要である。

## (2) 産 業

### 1) 事業所数と従業者数

本市の市域は南北に細長く、比較的平坦地の多い南部地域に都市機能が集中し、公共施設や商業施設、事業所などが分布している。南部地域に含まれる中心市街地は、全産業において事業所の割合が高く、全市の3,954事業所に対して、23.8%の941事業所を占めている。

特に、中心市街地の活性化を先導する「卸売・小売業、飲食店」の割合は27.9%、「金融・保険業」は51.8%、「不動産業」は22.5%、「サービス業」の割合は22.5%であり、中心市街地は本市の経済の中心となっている。また、従業者数の割合については、中心市街地で25.6%を占めている。

### 全産業の事業所数と従業者数

地 域	全 産 業	従 業 者 数
	事業所数(事業所)	従業者数(人)
中心市街地	941	9,937
全 市	3,954	38,819
割 合	23.8 %	25.6 %

資料：平成20年度版川西市統計要覧(平成18年10月1日現在)

## 産業別事業所

単位：事業所

地 域	農林漁業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業等	運輸・通信業	卸売・小売業・飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業
中心市街地	0	28	28	3	15	462	29	61	315
全 市	2	272	238	6	50	1,656	56	271	1,403
割 合 (%)	00.0	10.3	11.8	50.0	30.0	27.9	51.8	22.5	22.5

資料：平成 20 年度版川西市統計要覧（平成 18 年 10 月 1 日現在）

## 【事業所数と従業者数の現状把握と分析のまとめ】

中心市街地を含む南部地域に都市機能が集中し、公共施設や商業施設、事業所などが分布しており、中心市街地の事業所数と従業者数の占める割合は、それぞれ全市の 23.8%と 25.6%になっている。中心市街地の活性化にあたっては、本市の経済の中心地としてふさわしい商業活動が展開できるまちをめざすことが必要である。

## 2) 小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額、売場面積

中心市街地には、阪神間でも有数の大型商業施設が集中している。川西能勢口駅南側に阪急百貨店をキーテナントとするアステ川西、北側には若者に人気があるモザイクボックス、利便性の高い駅舎内にはベルフロアかわにしがあり、川西能勢口駅周辺には百貨店、大型量販店、コンビニ、沿道型の商業施設が集積している。また、本市で唯一のアーケード型商店街であった中央商店街は、市街地再開発事業により姿を消したため、中心市街地内では商店街がなく中心市街地内に点在するショッピングセンターや沿道型の商店が商業活動を支えている。

しかし、低迷する景気の影響や平成 7 年の阪神・淡路大震災の影響を受け、消費が落ち込むなど、商業活動の慢性的な停滞が生じている。また、市北部の猪名川町に開業したイオン猪名川ショッピングセンター（開業時の名称はジャスコ猪名川店）や、伊丹市に開業したイオン伊丹テラス（開業時の名称は伊丹ダイヤモンドシティ）などの大型商業施設の影響や、本市の中心市街地内の商業施設の老朽化などから、商業活動は非常に厳しい状況となっている。

## 商店数（小売業）

全市における商店数の推移をみると、平成 9 年に 1,234 店であったが、平成 14 年には 1,075 店に減少し、平成 19 年に 963 店にまで減少しており、平成 9 年の商店数に対する平成 19 年の割合は 78.0%となっている。

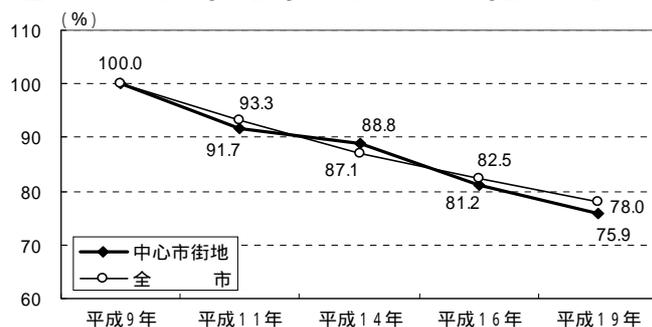
中心市街地の商店数の推移については、全市における傾向と同様で、平成 9 年に 457 店であったが、平成 14 年には 406 店に減少し、平成 19 年には 347 店にまで減少しており、平成 9 年の商店数に対する平成 19 年の割合は 75.9%となっている。

## 商店数（小売業）の推移（全市と中心市街地の比較）

年 次		平成 9 年	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
中心市街地	実数（店）	457	419	406	371	347
	指数（%）	100.0	91.7	88.8	81.2	75.9
全 市	実数（店）	1,234	1,151	1,075	1,018	963
	指数（%）	100.0	93.3	87.1	82.5	78.0

資料：商業統計調査

平成 9 年を基準とした商店数（小売業）増減割合の推移（全市と中心市街地の比較）



資料：商業統計調査

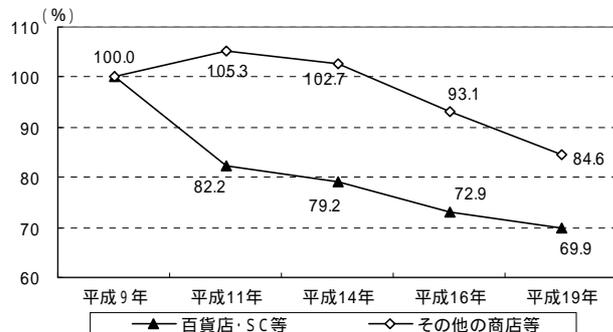
また、中心市街地において、百貨店・SC等の商店数は平成9年をピークに、その他の商店等は平成11年をピークにして減少している。各々の平成9年の商店数に対する平成19年の割合は、百貨店・SC等が69.9%、その他の商店等が84.6%となっている。

商店数（小売業）の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較 : SCはショッピングセンター）

年次		平成 9 年	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
百貨店・SC等	実数（店）	269	221	213	196	188
	指数（%）	100.0	82.2	79.2	72.9	69.9
その他の商店等	実数（店）	188	198	193	175	159
	指数（%）	100.0	105.3	102.7	93.1	84.6

資料：商業統計調査（ : 百貨店・SC等は、百貨店、SCの商店、家電店、量販店などとする。）

平成 9 年を基準とした商店数（小売業）の増減割合の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較）



資料：商業統計調査

従業者数（小売業）

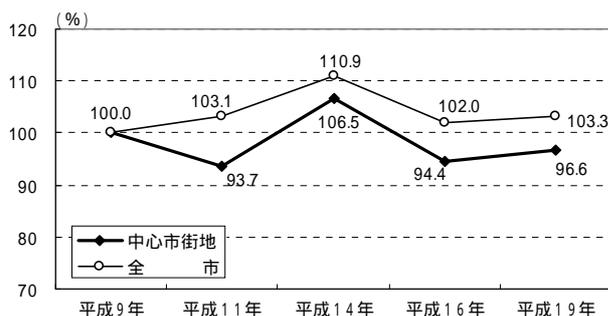
全市の従業者数については、平成14年の8,561人をピークに減少傾向にあり、平成19年の従業員数は、ほぼ平成9年の値にまで下がっている。平成9年の従業者数に対する平成19年の割合は103.3%となっている。中心市街地の従業者数についても全市と同様の傾向が見られ、平成14年の3,180人をピークに減少傾向にある。平成9年の従業者数に対する平成19年の割合は96.6%となっている。

従業者数（小売業）の推移（全市と中心市街地の比較）

年次		平成 9 年	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
中心市街地	実数（人）	2,985	2,797	3,180	2,818	2,883
	指数（%）	100.0	93.7	106.5	94.4	96.6
全市	実数（人）	7,718	7,960	8,561	7,870	7,971
	指数（%）	100.0	103.1	110.9	102.0	103.3

資料：商業統計調査

平成 9 年を基準とした従業者数（小売業）の増減割合の推移（全市と中心市街地の比較）



資料：商業統計調査

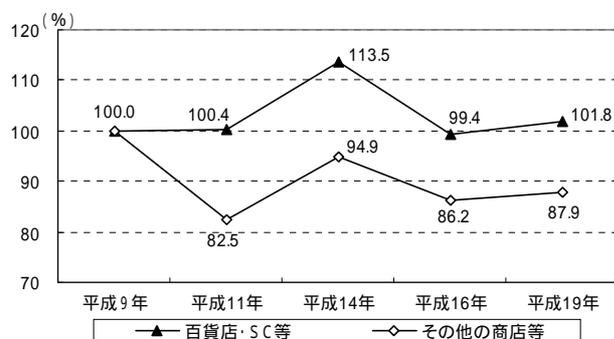
また、中心市街地において、百貨店・S C等の従業者数は平成 14 年をピークに、その他の商店等は平成 9 年をピークに減少している。それぞれの平成 9 年から平成 19 年までの増減は、百貨店・S C等が 1.8%の増加、その他の商店等が 12.1%の減少となっている。

従業者数（小売業）の推移（百貨店・S C等とその他の商店等の比較）

年次		平成 9 年	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年
百貨店・S C等	実数（人）	1,864	1,872	2,116	1,852	1,898
	指数（%）	100.0	100.4	113.5	99.4	101.8
その他の商店等	実数（人）	1,121	925	1,064	966	985
	指数（%）	100.0	82.5	94.9	86.2	87.9

資料：商業統計調査

平成 9 年を基準とした従業者数（小売業）の増減割合の推移（百貨店・S C等とその他の商店等の比較）



資料：商業統計調査

年間商品販売額（小売業）

全市の年間商品販売額については、平成 9 年の年間商品販売額は 1,627 億円であったが、平成 19 年までの 10 年間に 296 億円が減少しており、平成 9 年の年間商品販売額に対する平成 19 年の割合は 81.8%となっている。

中心市街地の年間商品販売額については、平成 9 年の年間商品販売額は 668 億円であったが、平成 19 年までの 10 年間に 112 億円が減少しており、平成 9 年の年間商品販売額に対する平成 19 年の割合は 83.2%となっている。

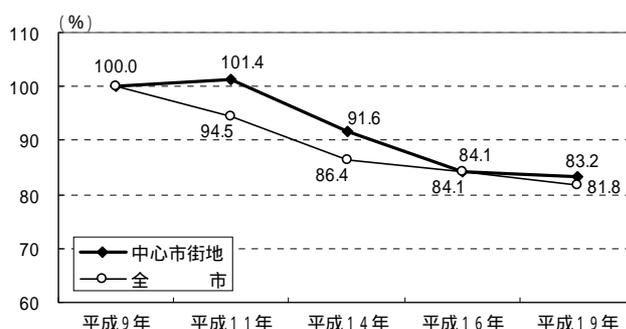
原因としては、平成 9 年までは阪神間に立地する商業施設の中でも川西能勢口駅周辺の商業施設は相当の集客を保っていたが、阪神間各市の市街地再開発事業などにより駅前に魅力的な商業施設が開業したことや、郊外に大型商業施設が新規に進出したことなどが考えられる。

年間商品販売額（小売業）の推移（全市と中心市街地の比較）

年次		平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
中心市街地	実数（百万円）	66,822	67,739	61,193	56,177	55,621
	指数（％）	100.0	101.4	91.6	84.1	83.2
全市	実数（百万円）	162,740	153,763	140,611	136,802	133,148
	指数（％）	100.0	94.5	86.4	84.1	81.8

資料：商業統計調査

平成9年を基準とした年間商品販売額（小売業）の増減割合の推移（全市と中心市街地の比較）



資料：商業統計調査

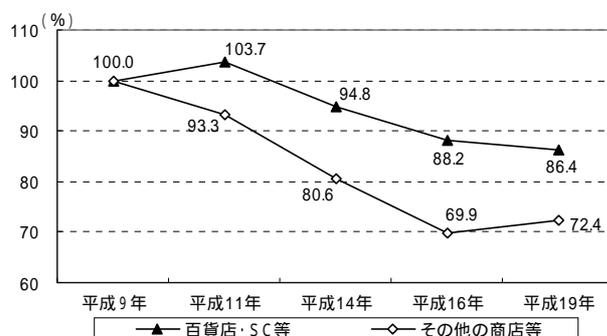
また、中心市街地において、百貨店・SC等の年間商品販売額は平成11年をピークに、その他の商店等は平成9年をピークにそれぞれ減少している。それぞれの平成9年の年間商品販売額に対する平成19年の割合は、百貨店・SC等が86.4%、その他の商店等が72.4%となっている。

年間商品販売額（小売業）の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較）

年次		平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
百貨店・SC等	実数（百万円）	51,811	53,738	49,101	45,679	44,748
	指数（％）	100.0	103.7	94.8	88.2	86.4
その他の商店等	実数（百万円）	15,011	14,001	12,092	10,498	10,873
	指数（％）	100.0	93.3	80.6	69.9	72.4

資料：商業統計調査

平成9年を基準とした年間商品販売額（小売業）の増減割合の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較）



資料：商業統計調査

売場面積（小売業）

全市の売場面積については、平成9年の売場面積は133,165㎡であり、平成19年は136,781㎡となっており、平成9年に対する平成19年の割合は102.7%となっている。

中心市街地の売場面積については、平成9年の売場面積は61,055㎡であり、平成19年は59,888㎡となっており、平成9年の売場面積に対する平成19年の割合は98.1%

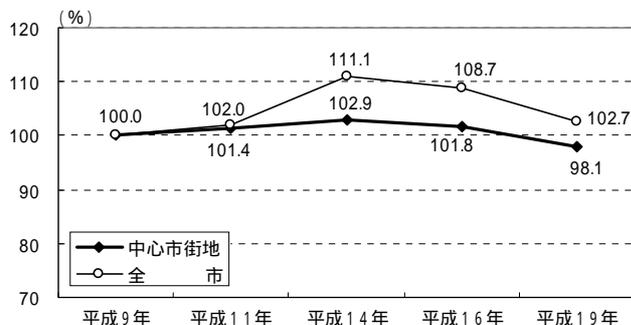
とほとんど変化がない。これは、経済不況の影響による店舗の撤退や閉店が見られたにもかかわらず、平成11年に完成した川西能勢口駅の駅舎内ショッピングセンターの開業や、都市計画道路小花滝山線の道路拡幅整備などにより道路に面して中高層マンションなどが新築されたほか、その他の新しい店舗の開店など、歩道に面する1階部分に店舗やサービス業が出店し、沿道が活性化されたことによるものである。しかし、最近では景気低迷などによる年間商品販売額の減少や事業主の高齢化などから、空き店舗が増加したことや、後継者不足による商店の閉鎖など、中心市街地の商業力は低下した状態が継続している。

**売場面積（小売業）の推移（全市と中心市街地の比較）**

年次		平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
中心市街地	実数（㎡）	61,055	61,902	62,831	62,150	59,888
	指数（％）	100.0	101.4	102.9	101.8	98.1
全市	実数（㎡）	133,165	135,818	147,989	144,701	136,781
	指数（％）	100.0	102.0	111.1	108.7	102.7

資料：商業統計調査

**平成9年を基準とした売場面積（小売業）の増減割合の推移（全市と中心市街地の比較）**



資料：商業統計調査

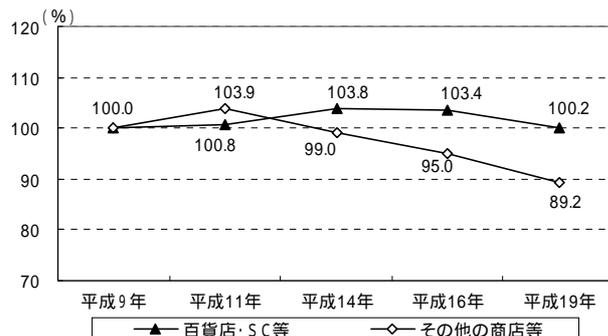
また、中心市街地において、百貨店・SC等の売場面積は平成14年をピークに、その他の商店等は平成11年をピークにそれぞれ減少傾向にある。平成9年から平成19年までの増減は、百貨店・SC等が0.2%の増加、その他の商店等が10.8%の減少である。

**売場面積（小売業）の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較）**

年次		平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
百貨店・SC等	実数（㎡）	49,279	49,668	51,173	50,958	49,386
	指数（％）	100.0	100.8	103.8	103.4	100.2
その他の商店等	実数（㎡）	11,776	12,234	11,658	11,192	10,502
	指数（％）	100.0	103.9	99.0	95.0	89.2

資料：商業統計調査

**平成9年を基準とした売場面積（小売業）の増減割合の推移（百貨店・SC等とその他の商店等の比較）**



資料：商業統計調査

【小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額、売場面積の現状把握と分析のまとめ】

中心市街地は、阪神間でも有数の大型商業施設が集中する地域であり、これまで活発な商業活動が展開されてきたが、低迷する景気の影響や平成 7 年の阪神・淡路大震災の影響を受け、消費が落ち込むなど、商業活動の慢性的な停滞が生じている。また、市北部の猪名川町に新規開業したイオン猪名川ショッピングセンター（開業時の名称はジャスコ猪名川店）や、市南側の伊丹市に新規開業したイオンモール伊丹テラス（開業時の名称は伊丹ダイヤモンドシティ）などの郊外型大型商業施設進出の影響や、本市の中心市街地内の商業施設が老朽化していることから、商業活動は非常に厳しい状況となっている。中心市街地内の従業者数と売場面積に大きな変化はないが、商店数と年間商品販売額の減少が続いている。中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくり、まちを回遊・滞留するためのネットワークの構築、様々なイベント事業の展開などにより、商業活動が活発になるまちづくりをめざすことが必要である。

### （３）歩行者通行量

歩行者通行量については、川西市商工会が平成 13 年度に実施した「川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査」と現在の数値を比較するため、川西市中心市街地活性化協議会が平成 21 年 11 月に、休日・平日とも午前 9 時から午後 8 時までの 11 時間の歩行者通行量調査を実施した。

調査結果は、休日、平日ともに全 8 地点のほとんどが減少傾向にあり、休日の合計で、平成 13 年度の調査値 96,453 人（平日は 87,409 人）が平成 21 年度には 56,368 人（平日は 52,974 人）となり、40,085 人（平日は 34,435 人）が減少しており、今回の調査値は、平成 13 年度の調査値に対して、休日は 41.6%、平日は約 39.4%の減少となっている。

各調査地点の内、川西能勢口駅と川西池田駅を結ぶ歩行者デッキ上の調査地点 川西能勢口駅南の歩行者デッキは、中心市街地で最も歩行者通行量が多い地点であるが、平成 13 年度の休日 31,278 人（平日は 27,395 人）が、平成 21 年度には休日 21,530 人（平日は 18,365 人）となっており、休日で 9,748 人（平日は 9,030 人）が減少しているほか、歩行者デッキ上以外の地上調査地点 ～ は 4 箇所すべてが減少している。また、平成 20 年 2 月にジャスコ川西店が閉店し、平成 21 年 10 月にジャスコ川西店内の専門店が閉店したことにより、川西能勢口駅東方面の内、特に調査地点 ジャスコに通ずる連絡デッキや調査地点 高架側道ジャスコ北東側の歩道はかなりの減少がみられた。一方、アステ川西とＪＲ川西池田駅間の調査地点 アステ川西南側の歩行者デッキはほとんど変化が無く、平成 13 年度には休日 12,685 人（平日は 11,348 人）であったが、平成 21 年度には休日 11,572 人（平日 12,060 人）となり、休日は 1,113 人が減少したが、平日は 712 人の増加がみられた。

これは、ＪＲ福知山線の尼崎駅とＪＲ大阪環状線の京橋駅を結ぶＪＲ東西線が平成 9 年 3 月 8 日に開業し、その後の輸送力増強に伴うＪＲ福知山線やＪＲ東西線のダイヤ改正などにより利便性が向上し、ＪＲ福知山線を利用して大阪市方面や神戸市方面へ向かう鉄道利用者が増加しているものと考えられる。

川西能勢口駅周辺には公共交通機関が結節し、公共・公益施設のほか、商業施設やサービス施設が集中していることから、今後においても歩行者通行量は一定の数値を保つと思われる。中心市街地の活性化にあたっては、特に川西能勢口駅東地区や中央北地区への回遊を促進する取り組みを積極的に展開するほか、まちなかを回遊・滞留するためのネットワークの構築が求められる。

歩行者通行量（休日）

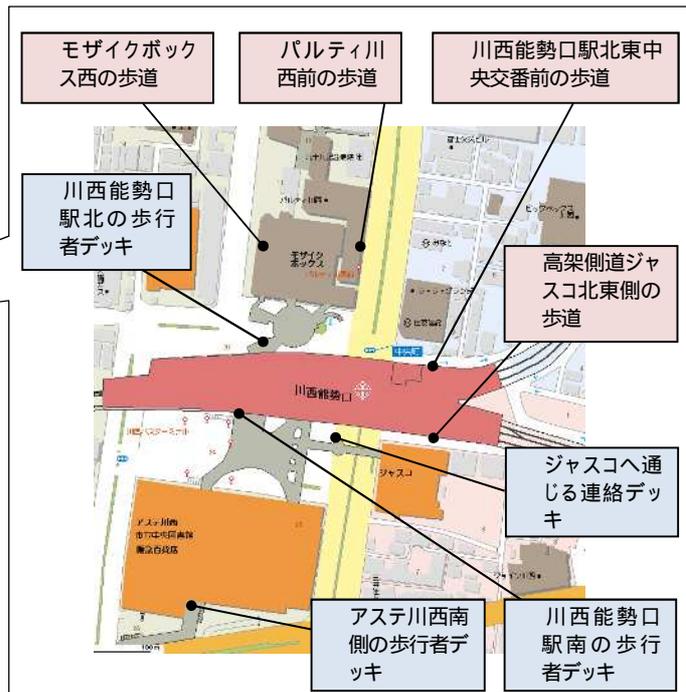
歩行者通行量（休日）		平成 13 年度（人）	平成 21 年度（人）	増減率（％）
地上	パルティ川西前の歩道	4,193	2,984	28.8
	モザイクボックス西の歩道	5,706	4,341	23.9
	川西能勢口駅北東中央交番前の歩道	5,397	3,344	38.0
	高架側道ジャスコ北東側の歩道	6,405	1,288	79.9
歩行者デッキ	川西能勢口駅北の歩行者デッキ	17,615	10,652	39.5
	川西能勢口駅南の歩行者デッキ	31,278	21,530	31.2
	アステ川西南側の歩行者デッキ	12,685	11,572	8.8
	ジャスコへ通ずる連絡デッキ	13,174	657	95.0
合 計		96,453	56,368	41.6

歩行者通行量（平日）

歩行者通行量（平日）		平成 13 年度（人）	平成 21 年度（人）	増減率（％）
地上	パルティ川西前の歩道	4,414	3,039	31.2
	モザイクボックス西の歩道	5,923	2,975	49.8
	川西能勢口駅北東中央交番前の歩道	6,167	5,311	13.9
	高架側道ジャスコ北東側の歩道	7,491	2,215	70.4
歩行者デッキ	川西能勢口駅北の歩行者デッキ	13,473	8,496	36.9
	川西能勢口駅南の歩行者デッキ	27,395	18,365	33.0
	アステ川西南側の歩行者デッキ	11,348	12,060	6.3
	ジャスコへ通ずる連絡デッキ	11,198	513	95.4
合 計		87,409	52,974	39.4

資料：平成 13 年度川西能勢口駅周辺歩行者通行量調査（川西市商工会）  
平成 21 年度歩行者通行量調査（川西市中心市街地活性化協議会）

調査地点図



【歩行者通行量の現状把握と分析のまとめ】

川西能勢口駅周辺には公共交通機関が結節し、公共・公益施設のほか、商業施設やサービス施設が集中していることから、通勤・通学者や買い物客が多く訪れている。しかし、川西能勢口駅と川西池田駅を結ぶ歩行者デッキ上の通行が多く、特に川西能勢口駅東側や中央北地区への回遊が少ない。今後においても川西能勢口駅周辺の歩行者通行量は一定の数値を保つと思われるが、特に川西能勢口駅東側や中央北地区への回遊を促進する取り組みを積極的に展開していく必要性があり、中心市街地の活性化にあたっては、街なかを回遊・滞留するためのネットワークの構築が求められる。

(4) 公共交通

本市の新しいまちづくりの指針として昭和 48 年度に策定した「駅周辺都市整備計画基本構想」の中心的事業に位置付けられた阪急電鉄及び能勢電鉄連続立体交差事業は、本市の中心市街地における交通渋滞の解消と、駅前広場の整備、アクセス道路の整備を骨格とし、昭和 55 年度に事業着手した。この事業は鉄道と道路の立体交差だけでなく、輸送力の増強による将来の駅利用者の増加を考慮するため、駅舎については旧駅舎の位置から西側へ約 170 メートル移転すると同時に広大な駅舎を整備した。これにより、阪急電鉄と能勢電鉄の乗り換えがスムーズに行えるなど通勤・通学のラッシュ時の混雑を解消することができた。また、市街地再開発事業により整備した商業施設（アステ川西）の 2 階を通り、JR 福知山線川西池田駅との間を歩行者デッキで接続するなど、中心市街地の発展に大きく寄与した。

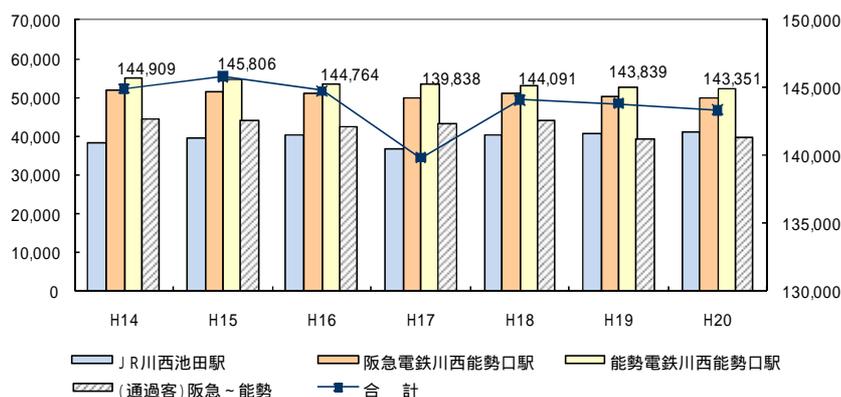
これらの事業により駅の乗降客が大幅に増加し、阪急電鉄の全駅の中でも乗降客数は上位を占めているが、利便性が高く乗降客の多くは乗り換えのためにまちを通過し、最近では街なかには立ち寄らない傾向が顕著に表れている。

乗降客の推移

単位：人

駅名	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
JR 川西池田駅	38,412	39,506	40,354	36,718	40,120	40,746	41,110
阪急電鉄 川西能勢口駅	51,663	51,593	50,900	49,874	50,851	50,402	49,967
能勢電鉄 川西能勢口駅	54,834	54,707	53,510	53,246	53,120	52,691	52,274
(通過客) 阪急～能勢	(44,176)	(43,720)	(42,413)	(43,167)	(43,958)	(38,899)	(39,667)
合計	144,909	145,806	144,764	139,838	144,091	143,839	143,351

資料：川西市統計要覧



資料：川西市統計要覧

それぞれの駅の乗降客数は表のとおりであり、3駅を合わせると約14万人で推移している。また、JR福知山線川西池田駅から川西能勢口駅への乗り換えは両駅間を結ぶ歩行者デッキを利用しており、両駅間は約450メートルである。さらに、川西能勢口駅は阪急電鉄と能勢電鉄間をホーム間で乗り換えることも可能であり、その乗り換え客は約4万人である。

また、川西能勢口駅前広場には中・北部の団地間や南部の旧市街地を走行する阪急バスの始発駅として川西バスターミナルがあり、多くの市民が利用している。全市の阪急バスの乗降客数は、平成17年のダイヤ改正に伴う便数増加などにより、平成16年から平成17年の間で急増し、平成17年以降は約4.5万人で推移している。このうち約5割の乗降客が川西能勢口駅前の川西バスターミナルを利用している。

中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを進め、明るく楽しく買い物ができる商業施設のリニューアルや、様々なイベントを展開するなど、まちを回遊・滞留するためのネットワークを構築し、駅利用者がまちに立ち寄る仕掛けづくりが求められる。

阪急バス乗降客の推移

単位：人

阪急バスの市内乗降客数	平成16年	平成17年	平成18年
市内全駅	41,106	45,142	44,915

資料：川西市統計要覧

#### 【公共交通の現状把握と分析のまとめ】

川西能勢口駅周辺は、大阪市や阪神間、神戸市方面へ通う通勤・通学者や、近隣市町からの買い物客などの来街者が利用しているが、通勤・通学者の多くは街なかには立ち寄らない傾向が顕著に表れている。中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを進め、中心市街地を訪れる来街者が街なかを回遊・滞留するためのネットワークを構築し、多くの来街者でにぎわう活気のあるまちづくりをめざすことが必要である。

## [ 4 ] 地域住民のニーズ等の把握・分析

### ( 1 ) 「来街者アンケート調査」に基づく把握・分析

この来街者アンケートは、川西能勢口駅周辺への来街者に対して、駅周辺に立地する施設及び地区の使われ方・イメージ・希望や来街範囲などを詳しく聞き取ることにより、川西能勢口駅周辺の実像を的確に把握し、本市における今後の中心市街地の商業活性化とまちづくりを推進することを目的として実施した。なお資料については、かわにしTMOが平成17年3月にまとめた「川西市中心市街地活性化事業展開検討」を使用した。以下に調査結果の概要を示す。

#### 1) 調査の概要

- ・調査日時：平成17年2月27日(日)及び3月1日(火) 10:00～18:00
- ・調査方法：調査員の街頭インタビューによる聞き取り調査
- ・サンプル：各日200サンプル 合計400サンプル

#### 2) 調査の結果

##### 居住地

来街者の居住地は、市内に居住する人が約66.7%である。また、中心市街地に近い宝塚市や伊丹市などに居住する人が約31.4%となっている。休日は市外からの利用割合が大きくなっており、休日は平日に比べてやや広範囲から中心市街地を訪れている。

## 居住地

単位：％

項目	川西市内	川西市外	不明
全体	66.7	31.4	1.9
休日	64.8	34.7	0.5
平日	68.5	28.2	3.3

## 交通手段

交通手段は、電車やバスの利用が約 44.5％、徒歩と自転車の利用が約 41.9％であり、市内中北部の市民や近隣市の住民は電車やバスの利用が多く、中心市街地の周辺からは徒歩や自転車利用が多い。自動車の利用は少なく、比率は約 7.5％となっている。

また、阪急バスの利用が、平日約 13.4％に対し、休日約 21.9％と大きく増加している。さらに、自動車の利用が、平日約 5.3％に対し、休日約 9.7％と増加しており、休日の自動車利用が平日の 2 倍近くになっている。しかし、能勢電鉄の利用については、平日約 12.4％に対し、休日約 6.1％と半分以下になっている。

## 来街交通手段

単位：％（網掛けは第 1 位）

項目	阪急電鉄	能勢電鉄	J R	阪急バス	自動車	バイク	自転車	徒歩	その他
全体	15.6	9.3	2.0	17.6	7.5	4.7	17.4	24.5	1.4
休日	15.3	6.1	2.0	21.9	9.7	5.1	15.3	23.6	1.0
平日	15.8	12.4	2.0	13.4	5.3	4.3	19.6	25.4	1.8

## 頻 度

利用者の来街頻度は、ほぼ毎日の約 47.7％と週 2、3 回の約 23.7％の合計が約 7 割となっていることや、平日と休日の来街頻度の差はほとんどないことから、来街者は日常的に中心市街地を利用している。

## 来街頻度

単位：％（網掛けは第 1 位）

項目	ほぼ毎日	週 2、3 回	週 1 回	月 2、3 回	月 1 回	その他
全体	47.7	23.7	12.1	8.9	4.5	3.1
休日	48.4	23.0	11.7	8.2	4.6	4.1
平日	46.9	24.4	12.4	9.6	4.5	2.2

## 滞留時間

来街者の滞留時間は、約 1 時間の滞留が約 26.7％と多いが、1 時間以上の滞留を合わせると、約 74.9％となっており、来街者の多くが中心市街地に数時間滞留している。休日の滞留時間が平日に比べて若干長いものの、平日でも 1 時間以上の滞留が約 72.2％となっており、平日と休日に大きな差はない。

## 滞留時間

単位：％（網掛けは第 1 位）

項目	15 分	30 分	1 時間	1 時間半	2 時間	2 時間半	3 時間以上	その他
全体	6.1	13.1	26.7	7.0	17.8	3.6	19.8	5.9
休日	5.6	11.7	26.6	9.2	18.4	1.5	21.9	5.1
平日	6.7	14.4	26.8	4.8	17.2	5.7	17.7	6.7

## 利用目的

来街者の目的は、平日・休日ともに、半数以上が買い物であり、再開発ビル内のショッ

ピングセンターなどで買い物することが多くなっている。また、休日には、洋服などその他の買い物割合が大きくなっているほか、文化施設の利用割合も大きく、平日に比べて買回り性や文化性の高い利用目的となっている。

#### 利用目的

単位：％（網掛けは第1位）

項目	買い物 （食料品）	買い物 （その他）	飲食・喫茶	文化施設の 利用	通勤・通学	なんとなく	その他
全体	30.9	24.1	5.1	3.9	6.2	6.4	23.4
休日	30.9	27.5	5.9	5.9	2.9	4.5	22.4
平日	30.9	20.7	4.4	1.8	9.5	8.4	24.3

#### 中心市街地以外の利用

本市の中心市街地以外の利用としては、商業施設などの集積度が高い大阪梅田、伊丹（イオンモール伊丹テラスなど）の利用が多く、次いで隣接する宝塚、池田となっているが、大阪梅田や伊丹の利用との差は大きい。また、中心市街地以外の目的地としては、他市に比べ川西市内の利用が約5.9%となっており、市内での施設利用が比較的少ない。

#### 利用目的地

単位：％（網掛けは第1位）

項目	川西市内	伊丹	宝塚	池田	他周辺都市	大阪梅田	その他
全体	5.9	17.4	8.5	7.6	8.9	23.4	28.3
休日	4.9	21.2	8.8	7.1	5.7	25.4	26.9
平日	6.8	13.6	8.1	8.1	12.2	21.4	29.8

#### まちのイメージ

まちの良いイメージとしては、「何でも揃う街」が最も多く、次いで「明るい街」「庶民的な街」「歩道でつなく便利な街」と続いている。また、悪いイメージとしては、「ゴミゴミした街」「治安が悪い街」といった回答があるが、全体的には概ね良いイメージである。

#### 街のイメージ

単位：人（複数回答）

良いイメージ	平日	休日	全体	悪いイメージ	平日	休日	全体
何でも揃う街	41	42	83	ゴミゴミした街	26	19	45
明るい街	34	36	70	治安が悪い街	20	20	40
庶民的な街	36	27	63	個性がない街	15	10	25
歩道でつなく便利な街	31	18	49	おもしろみのない街	9	11	20
活気のある街	18	23	41	活気のない街	4	11	15
品物が安い街	13	16	29	落ちつきのない街	8	6	14
歴史のある街	9	15	24	回遊性の悪い不便な街	5	5	10
若い人が集う街	5	10	15	幅広い年代層が来ない街	2	6	8
おしゃれな街	2	6	8	古くさい街	3	5	8
信頼できる街	7	1	8	品物が高い街	0	5	5
文化的な街	4	2	6	親しみにくい街	0	3	3
情報が集積した街	2	3	5	買い物に不便な街	1	2	3
個性的な街	1	3	4	都会的で冷たい街	0	1	1
その他	74	58	132	その他	141	123	264

#### 回答者の属性

来街者の多くが無職で、約52.8%を占める。また、平日は学生の合計が約15.4%であり、会社員などより大きな値である。また、来街者の約6割が女性、約4割が男性となっており、来街者の女性の約79.9%、男性の約63.0%が既婚となっている。

**職業**

単位：％（網掛けは第1位）

項目	会社員等	自営業	パート	高校生	大学生	無職	その他
全体	16.4	3.9	9.7	6.7	5.7	52.8	4.8
休日	23.7	4.1	8.3	5.2	4.1	46.9	7.7
平日	9.1	3.8	11.1	8.2	7.2	58.7	1.9

**性別**

単位：％

項目	男性	女性	不明
全体	38.2	61.3	0.5
休日	35.2	64.3	0.5
平日	41.1	58.4	0.5

**既婚・未婚（男性）**

単位：％

項目	既婚	未婚	不明
全体	63.0	37.0	0.0
休日	72.5	27.5	0.0
平日	53.5	46.5	0.0

**既婚・未婚（女性）**

単位：％

項目	既婚	未婚	不明
全体	79.9	20.1	0.0
休日	74.6	25.4	0.0
平日	85.2	14.8	0.0

**3) 来街者の特性とニーズ**

上記の来街者アンケート調査の結果や、回答者のその他の意見などから、来街者の特性とニーズをまとめると、以下の通りである。

- ・ 来街者の居住地は市内が多いが、中心市街地に近い宝塚市や伊丹市も多く、来街者の交通手段は、約4割が徒歩と自転車である。
- ・ 来街者の頻度は、ほぼ毎日が約半分を占め、滞留時間は約1時間程度が約3割である。
- ・ 来街者の利用目的は、食料品などの買い物が中心であるが、食料品以外の買い物先は、大阪梅田、伊丹方面が多い。
- ・ 来街者の約6割は女性で、その内の約8割が既婚者である。また、来街者は比較的近い地区に居住する市民が多く、ほとんど毎日買い物にやってくる。
- ・ 大型店を中心に様々な施設で買い物をしており、1時間以上は買い物に掛かる。特に休日には、3時間以上駅周辺にいても多くなっている。
- ・ 本市以外でよく行くところとしては大阪梅田が伊丹が多く、これは映画館やレストランなどいろいろな集客施設が揃っているためと思われる。
- ・ 本市にも映画館や健康ランド、公園、緑地など楽しんでくつろげる施設やファミリーレストランなどのように、家族や友人と食事ができる施設が望まれる。
- ・ まちのイメージについては、庶民的で明るく活気のあるまちで、何でも揃うまちであり、立体的な歩道でつながっていて便利であり、全体的には良いイメージを持っている。

**【地域住民のニーズ等の把握と分析のまとめ】**

中心市街地には、公共・公益施設や商業施設、サービス施設などが揃っていることから、日常的に多くの市民が利用しており、本市の経済活動の中心になっている。また、中心市街地は庶民的で明るく活気のある街のイメージがあるものの、魅力的な店舗や映画館などの娯楽施設が少ないため、最寄り品の購買行動が中心となったまちとなっている。地域住民のニーズは、映画館や健康ランド、公園、緑地など楽しんでくつろげる施設やファミリーで楽しめる施設などであり、中心市街地の活性化にあたっては、魅力的でにぎわいのあるまちづくりを進め、多くの来街者が街なかを散策し、くつろぎ楽しめる空間があるまちをめざすことが必要である。

## [ 5 ] これまでの中心市街地活性化の取り組み

### ( 1 ) 旧基本計画の策定とこれまでの取り組み

#### 1 ) 旧基本計画の策定

本市では、平成 12 年度に改正前の法律に基づき川西市中心市街地活性化基本計画を策定し、『個性あふれ、人にやさしい、にぎわいのあるまちづくり』を基本理念として「街づくり第 2 章」をキャッチフレーズに様々な取り組みを進めてきた。

これまで、平成 18 年度に完成した都市計画道路「小花滝山線」は、高感度な道路として、電線類の無電柱化と植栽やベンチ、モニュメントのある歩道及びポケットパークがあり、市民が憩い親しまれる道として生まれ変わったほか、アステ川西において、平成 17 年度から事業を開始した「駅周辺駐車場の一体的運用及び駐車ナビゲーションシステムの構築事業」は、経済産業省の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金を受け、アステ川西駐車場の慢性的な混雑解消と共同カードシステムにより駅周辺の駐車場の効率的な運用を図った。



小花滝山線



228 パーキング

#### 2 ) 旧基本計画の基本理念

活性化の基本理念：『個性あふれ、人にやさしい、にぎわいのあるまちづくり』  
北摂の夢宿 — 街づくり第 2 章 —

- 1 . 北摂地域の発展に寄与する拠点都市の核
- 2 . 市内の経済・産業の発展をリードする活力創出の中心
- 3 . 多様な都市的サービス及び都市的魅力を提供する場
- 4 . 都市のアメニティを享受しながら、生き活きとした暮らしの生活空間
- 5 . 地域の資源や活動を通して、独自の都市文化を創造し発信する文化の中心

#### 3 ) 『駅周辺駐車場の一体的運用及び駐車ナビゲーションシステムの構築事業』の背景及び事業の概要と効果について（経済産業省：戦略的中心市街地商業等活性化支援事業）

##### 事業の背景

近年のモータリゼーションの進展により、自動車利用は年々増加しており、特に大都市の近郊都市の自動車利用はかなり進んでいる。特に行楽シーズンは、市の北部や市に隣接する猪名川町や豊能町、能勢町、さらに北部の篠山市の観光地、ゴルフ場、野外センターに出向く行楽客が通過するなど、中心市街地は鉄道の利用者と自動車利用者が日常的に集中している。しかし、中心市街地内の主な幹線道路の拡幅整備は完了したものの、市道や生活道路の幅員は狭く、川西能勢口駅周辺に点在する駐車場への動線が分かりにくいなど、それぞれの駐車場へのスムーズな誘導と、駐車場の整備が重要な課題となっている。

アステ川西地下駐車場においても、来館者の自動車がスムーズに入出庫できない問題があり、慢性的な渋滞が発生し周辺道路の混雑に拍車をかけていたため、これらの問題や課題の解決策が求められていた。当事業は既存駐車場の有効利用と誘導の円滑化を図り、自

動車利用者の来街促進による中心市街地活性化を図ることを目的とし、平成 17 年度戦略的中心市街地商業等活性化支援事業『駅周辺駐車場の一体的運用及び駐車ナビゲーションシステムの構築事業』として、同ビルの管理会社である川西都市開発株式会社が実施した。

## 事業の概要

### 施設整備事業

#### ・ 駐車場増強整備事業

駐車場増強整備事業としては、近接既存駐車場の 228 パーキング及び川西能勢口駅東地区のジョイン川西駐車場を取得し、それらの運営を一体化し、各駐車場の駐車料金自動精算化や集中管理化などを整備した。当事業の目的は、管理運営を統一化するなど、駐車場利用者共同カード事業を導入し、駐車場へのスムーズな入出庫により、周辺道路の混雑緩和に寄与することとした。

#### ・ 駐車場スロープ整備事業

アステ川西駐車場は来館者の利用頻度が非常に高く、満車状態が開業時から継続している。しかし、出庫車輛が自動車交通量の多い国道 176 号線へ合流していることから、道路渋滞が多く、出庫が困難な状況であるため、駐車場内は出庫車両が列をなすことから渋滞が慢性化しており、駐車ブースは空いているものの入庫ができないなど、利用効率が非常に低い状態となっていた。この原因としては、出庫口となる国道 176 号線の東行き車両の多くが、今辻交差点(アステ川西南東)を左折し川西市北部へ向かうため、その車列に当駐車場からの出庫車両が合流することがあげられる。当事業の目的は、これらの問題を解消するため、駐車場内の地下 2 階からアステ川西北側バスロータリーへ出庫専用スロープを新設することで、駐車場内はもとより周辺道路の混雑緩和にも寄与することとした。

### 活性化事業

#### ・ 駐車場利用者共同カード事業

当事業の目的は、運営が一体化された駐車場において共通して利用できる特典付きプリペイドカードの導入や利用金額に応じたポイントが付与できるポイントカードの導入によるプレミアムサービスをシステム化し、活性化に寄与することである。

#### ・ ナビシステム整備事業

ナビシステム整備事業は、パーソナルコンピューター、携帯電話、カーナビゲーションシステムなどを利用した駐車場満空案内システムであり、放送・通信・情報の最も先進的な IT 活用のシステムである。当事業の目的は、複数の駐車場の満空情報を希望者に発信することにより中心市街地の駐車場利用者に対する利便性の向上と、設備投資を抑えたコストパフォーマンス性の高い、簡単で判りやすい駐車場誘導システムを整備することにより、駅周辺の道路事情を解決することとした。また、駅周辺の民間駐車場への利用を促進し、中心市街地への来街者に対する利便性の向上を図った。

## 各事業実施年度

### 駐車場増強整備事業

- ・ 近接既存駐車場取得・・・平成 18 年 1 月 1 日に取得(1 月 2 日より運営開始)
- ・ 共同カード化事業・・・平成 18 年 4 月 1 日より実用開始

- ・ 駐車場出路スロープ事業・平成 19 年 2 月 13 日より供用開始

### パーキングナビ事業

駅周辺の民間駐車場の調整の上、平成 20 年度末にサービス（運営）を開始した。

#### 事業の実施効果について

既存駐車場の取得後、一体運営による駐車場料金の自動精算化や共同カード化を目的とした機器などの更新及びアステ川西駐車場の出路専用スロープの供用開始などにより各駐車場の利用率や利用者に対する顧客サービスを高めることができた。アステ川西駐車場の利用台数は、事業完了後、ほぼ毎月大きな伸びを示しており、入庫台数が増えたにもかかわらず出庫待ち車による駐車場内の渋滞などは皆無となっている。

一方、アステ川西駐車場へのスムーズな入出庫が可能となったことで、道路向いの 228 パーキングの利用者がアステ川西駐車場へ流れる現象が発生しているのが現状であるが、両方の駐車場全体を見た場合、利用者数は増加しているという結果が現れている。その結果として共同カード（プリペイドカード）は販売枚数も安定して利用されており、228 パーキングで実施しているポイント付与による駐車料金還元システムの利用者も着実に増えている。また、アステ川西駐車場においては、出庫待ち車による渋滞は新規出路スロープの供用開始後は皆無となり、年末年始など特別な繁忙期を除き、入庫待ち車の渋滞も緩和され周辺の道路混雑の緩和に大きく寄与するなど非常に大きな成果をあげている。

また、パーキングナビ事業については、昨今のガソリンなど燃料価格の高騰や飲酒運転罰則強化策などにより、駅周辺への車利用が減少してきているものの、駐車場へのスムーズな誘導が求められており、同システムの機器の導入選択並びにプログラムを作成し、平成 20 年度末にサービスを開始した。

#### 年間駐車場利用台数の推移（台/年間）

年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	比率(平成 20 年度 /平成 16 年度)
利用台数	580,791 台	587,846 台	608,945 台	633,373 台	625,622 台	約 108 %

資料：川西都市開発株式会社調査

#### 4) TMOを中心としたこれまでの取り組み

旧基本計画の中心市街地区域の内、主に商業施設が集積する川西能勢口駅周辺の活性化を積極的に推進していく組織として、平成 15 年 7 月に第 3 セクターである川西能勢口振興開発株式会社を TMO に認定し、主に商業活性化のための活動を続けている。主な活動は、来街者調査の実施、再開発ビルの空き区画を活用したインキュベーションセンターの検討、区分所有形態の再開発ビル再生に向けた調査研究や、中心市街地に存在する史跡や施設を紹介した「かわにしのおでかけMAP」の史跡・施設編とグルメ編の発行などである。



おでかけMAP（史跡・施設編）



おでかけMAP（グルメ編）

また、兵庫県阪神北ふれあいフェスティバルと連携した「かわにしいち」の開催、夏と冬のイベント「かわにし能勢口まつり」の開催、阪神・淡路大震災復興基金を活用し、かわにし能勢口にぎわいプロジェクトとして実施している「かわにし朝市」、上方落語の「アステかわにし繁昌亭」「JAM・HOP・CARNIVAL」「光のオブジェ展」などのイベントを地域の関係者と協働して取り組んでいる。

特に、平成 16 年度に市制 50 周年事業として取り組んだ「かわにし能勢口まつり」は、かわにしTMOが中心となって、川西市商工会、地域の商店会、民間企業、地域団体などが連携して、それぞれの団体のイベントや販促活動を一齐に実施し、川西能勢口駅周辺一帯において、多くの市民でにぎわった。この取り組みは、平成 17 年度以降も引き続き実施されており、現在は「かわにし能勢口まつり」の開催と並行して、かわにし能勢口にぎわいプロジェクトを立ち上げて、かわにし朝市などの様々なイベントを実施している。また、こうした地域の連携を継続し、平成 19 年度の川西市中心市街地活性化協議会の設立に至った。

#### かわにし能勢口まつりの概要

概要	事業の内容
主催	かわにしTMO（川西能勢口振興開発株式会社）
協賛団体	川西市商工会、川西商店連盟、協同組合川西中央商店会、能勢口商業協同組合、ベルフローラかわにし商店会、TEMPO175 振興会、SUPER MARKET KOHYO、川西都市開発株式会社、株式会社パルティ川西、株式会社阪急ショッピングセンター開発、株式会社阪急百貨店、阪急電鉄株式会社、能勢電鉄株式会社、アサヒ飲料株式会社、株式会社ファシリティーズなど
主な取り組み	<p>【川西能勢口駅東広場】</p> <p>フリーマーケット、川西市吹奏楽演奏、スタンプラリー、子ども御輿、ビンゴゲーム、ちんどんや、盆踊り、河内音頭ライブ、大道芸、カラオケ大会（12月）、野菜の直売販売（12月）</p> <p>【パルティ川西・モザイクボックス】</p> <p>おまつり縁日広場、光と占いのコラボレーション（12月）、ハンドベルXmasコンサート（12月）</p> <p>【ベルフローラかわにし】</p> <p>ベルフローラの夏まつり（縁日カーニバル）、ベルフローラのクリスマス（12月）</p> <p>【アステ川西】</p> <p>夏休みちびっこカーニバル、モンテッチのスーパーキッズショー、「金魚すくい大会」川西地区予選会、ファミリーフェスティバル、風船ショー、アステクリスマスストーリー（12月）</p>
イベントの参加人数	川西能勢口駅東広場（約 4,000 人）パルティ川西・モザイクボックス（約 1,000 人）ベルフローラかわにし（約 2,000 人）アステ川西（約 5,000 人）など、夏・冬とも 2 日間の開催で、合計約 12,000 人の参加人数である。

しかし、こうした根強いまちづくり活動を行っているにもかかわらず、相変わらず中心市街地のにぎわいは少なく、また、川西能勢口駅や川西池田駅の利用者の多くは通勤・通学などの乗換え客であり、買い物を目的とした駅利用者は少ないのが現状である。

## （2）旧基本計画に基づく各種事業の把握・分析

### 1）旧基本計画の区域

旧基本計画の区域は、本市の商業集積地である川西能勢口駅周辺地区に加えて、中央北地区などを含む範囲を中心とし、その周辺に連続して広がる市街地の約 300ha を対象とした。この範囲には、主な公共・公益施設や商業施設などがあり、これらの施設は川西能勢口駅から半径 1～2km の範囲に集中している。また本市の歴史的・文化的資源が広く分布している。

### 2）各種事業の取り組みと評価

本市では、市街地の整備改善に関する事業及び商業等の活性化に関する事業、中心市街地の活性化のために取り組むその他の事業として、63 に及ぶ事業を設定した。

旧基本計画に記載の事業の進捗状況（平成 21 年度末現在）

項 目	事業数	着手済数	未着手数	実施率
市街地の整備改善に関する事業	12	8	4	66.7%
商業等の活性化に関する事業	45	6	39	13.3%
中心市街地活性化のために取り組むその他の事業	6	0	6	0.0%
合 計	63	14	49	22.2%

**市街地の整備改善に関する事業**

市街地の整備改善に関する事業については、国土交通省などの支援を受けながら過年度からの継続事業を実施し、1 川西能勢口駅東地区まちづくり総合支援事業、7 日高住宅地区改良事業、8 栄町 1 号線整備事業、9 都市計画道路事業呉服橋本通り線街路事業が完了した。また、6 福祉のまちづくり事業や 11 主要地方道路川西篠山線の電線類地中化事業、12 都市計画道路事業豊川橋山手線街路事業（県道区間のみ）などに着手した。

これらの事業の実施により、特に川西能勢口駅東地区における新しいにぎわい空間の創設や、沿道でのマンション建設などが進み、地区の活性化に寄与した。しかし、本市の財政事情悪化などの原因により新規事業の実施年度が確定しないなど、4 事業については事業着手に至らなかったことにより、実施率は 66.7%となっている。

市街地の整備改善に関する事業（平成 21 年度末現在）

番号	事業名	事業期間	事業主体	実施状況
1	川西能勢口駅東地区まちづくり総合支援事業	H13-H17	川西市	完了
2	川西能勢口駅東地区第二工区第一種市街地再開発事業	H15以降	民間	未着手
3	川西中央南地区第一種市街地再開発事業	H15以降	民間	未着手
4	川西市中央北地区住宅街区整備事業	H10-H25	民間	一時休止
5	公共公益施設の再配置（計画立案）	中期以降	川西市	未着手
6	福祉のまちづくり事業	実施中	川西市	実施中
7	日高住宅地区改良事業	S63-H14	川西市	完了
8	栄町 1 号線整備事業	H11-H13	川西市	完了
9	都市計画道路事業呉服橋本通り線街路事業	H12-H18	兵庫県	完了
10	栄根 2 丁目土地区画整理事業	H14-H18	民間	未着手
11	主要地方道路川西篠山線の電線類地中化事業	H15以降	兵庫県	実施中
12	都市計画道路事業豊川橋山手線街路事業（県道区間のみ）	期間未定	兵庫県	実施中

**商業等の活性化に関する事業**

商業等の活性化に関する事業については、兵庫県や本市の支援を受けながら、商工会、かわにし TMO、地域の商店会などが協働してイベントなどに取り組んできた。

また、かわにし TMO は再開発ビルの空き区画を活用したインキュベーション施設の導入に関する検討調査を実施した。これらの取り組みのほか、おでかけMAPを作成するなど、まちの情報発信も進めてきた。しかし、かわにし TMO は組織が少人数であったことに加えて資金が乏しいため収益事業に取り組むことが困難であったなど、活性化のための事業を確実に実施するに至っていない。また、高齢化によるまちづくり活動家の不足などから、基本計画に記載した 45 事業のうち着手したのは、13 フリーマーケット「夢市場」の開催、14 大道芸「夢祭り」の開催、15 遊休地等を活用した暫定事業、16 阪神地域への PR など、合同イベントの実施、18 デッキ等のイルミネーションイベントの実施、23 空き店舗へのテナント誘致など 6 事業にとどまっている。実施率は 13.3%である。

商業等の活性化に関する事業（平成 21 年度末現在）

番号	事業名	事業期間	事業主体	実施状況
13	フリーマーケット「夢市場」の開催	前期以降	TMO等	実施中
14	大道芸「夢祭り」の開催	前期以降	TMO等	実施中
15	遊休地等を活用した暫定事業	前期以降	TMO等	実施中
16	阪神地域へのPRなど、合同イベントの実施	前期以降	TMO等	実施中
17	ファッションショーの開催	前期以降	TMO等	未着手
18	デッキ等のイルミネーションイベントの実施	前期以降	TMO等	実施中
19	イベントインフォメーション「夢ステーション」の設置	前期以降	TMO等	未着手
20	商店街カード事業等の推進	前期以降	TMO等	未着手
21	夢商品（ゆめカード）の共同開発	前期以降	TMO等	未着手
22	エンターテイメント型店舗の開発誘導	前期以降	TMO等	未着手
23	空き店舗へのテナント誘致	前期以降	TMO等	実施中
24	ベンチャー事業者店舗「夢工房」の整備	前期以降	TMO等	未着手
25	チャレンジショップ、チャレンジフロア事業	前期以降	TMO等	未着手
26	都市型アミューズメント施設の誘致	前期以降	TMO等	未着手
27	IT体験ゾーンの整備	前期以降	TMO等	未着手
28	ITのネットワーク化	前期以降	TMO等	未着手
29	エコロジー活動の奨励	前期以降	TMO等	未着手
30	環境共生への取り組み	前期以降	TMO等	未着手
31	リサイクルショップの設置	前期以降	TMO等	未着手
32	文化施設等のライトアップ計画の推進	中期以降	TMO等	未着手
33	シティホテルの誘致	中期以降	TMO等	未着手
34	多目的イベント施設の誘致	中期以降	TMO等	未着手
35	子どもの館・街なか一時託児施設の設置	中期以降	TMO等	未着手
36	ケンタッキータウンの整備	中期以降	TMO等	未着手
37	ウォーターフロント空間の整備	中期以降	川西市	未着手
38	まちかどコンサート「夢ライブ」の開催	前期以降	TMO等	未着手
39	街なかアートイベントの開催	前期以降	TMO等	未着手
40	ショーウィンドウデザイン等のコンテストの開催	前期以降	TMO等	未着手
41	ミステリーイベント「謎夢街（メムクウ）ツアー」の開催	前期以降	TMO等	未着手
42	商業と福祉事業の連動	前期以降	TMO等	未着手
43	街頭情報板・モニター「ドリーム・ウインドウ」の設置	中期以降	TMO等	未着手
44	アートストリート「夢降る街」の整備	中期以降	TMO等	未着手
45	ドラマチックストリートの整備	中期以降	TMO等	未着手
46	街路灯の整備（高架側道部など）	中期以降	TMO等	未着手
47	ポケットパーク「夢かど」の整備	中期以降	川西市	未着手
48	快適な水路空間の整備（かわにし夢トレイル）	中期以降	川西市	未着手
49	河川ミュージアム、ミュージアムショップの整備	中期以降	川西市	未着手
50	案内板の設置	前期以降	TMO等	未着手
51	レンタサイクル「夢サイクル」の誘致	前期以降	TMO等	未着手
52	辻茶屋の誘致	前期以降	TMO等	未着手
53	緑の回廊づくり	前期以降	TMO等	未着手
54	ミニFMの導入	中期以降	TMO等	未着手
55	総合健康増進施設「夢湯」の誘致	中期以降	TMO等	未着手
56	レジデンシャル・オフィスの整備	中期以降	TMO等	未着手
57	きれいで魅力的な公衆トイレの設置	中期以降	川西市	未着手

中心市街地活性化のために取り組むその他の事業

中心市街地活性化のために取り組むその他の事業については、ITを活用した情報通信に関する事業や生活者にとってより利便性を高めたバス輸送の向上などに関する事業を予定したが、関係者の十分な協議が進まないまま未着手となっている。実施率は0%である。

中心市街地活性化のために取り組むその他の事業（平成 21 年度末現在）

番号	事業名	事業期間	事業主体	実施状況
58	ITのネットワーク化（市街地全域に対して）	前期以降	TMO等	未着手
59	地域情報発信事業	中期以降	TMO等	未着手
60	バスの利便性向上	中期以降	民間	未着手
61	高齢者等にやさしい、環境にやさしいバスの充実	中期以降	民間	未着手
62	コミュニティバスの研究	中期以降	民間	未着手
63	電動カートシステムの導入（ショップ・モビール事業）	中期以降	TMO等	未着手

（3）活性化推進に向けた体制に関する把握・分析

1）施策を実施できなかった要因

施策を実施できなかった要因をみると、大きく3つに分類される。1つ目は地元住民などのコンセンサスが得られなかったために実施できなかった。2つ目は事業を行うための資金が不足したために実施できなかった。3つ目は事業実施前の調査・再評価などにより、事業を実施する意義が低くなったと認められたために未実施のままとなったの3つである。

2）今後の中心市街地活性化に向けた課題

新しい基本計画においては、記載した事業が計画期間内に確実に着手・実施できるようにするため、概ね見通しがある事業について基本計画に記載するものとする。各事業については、事業の目的、内容、実施期間、実施場所などを示し、その上で資金計画やフォローアップについても明確にする。また、事業主体として市民ボランティアや地元住民の参画を求めるものについては、将来的な人づくりまで視野に入れながら、事業の構築をめざす。

これまでのまちづくり活動は、かわにしTMOが中心となって行う事業、地域の商店会ごとに行う取り組み、ショッピングセンターの販促イベントなどを中心に実施されてきたが、まちのにぎわいを取り戻す大きなうねりにはなっておらず、短期的には来街者を増やすことができても一時的なもので、持続的なにぎわいとなっていない。

こうした中、かわにしTMOや再開発ビルの管理会社（第3セクター）、地域の関係者、川西市などが協働して、平成18年度にスタートした「かわにし能勢口にぎわいプロジェクト」は、阪神・淡路大震災復興基金を活用した兵庫県の支援事業として取り組み、多くの市民に親しまれるイベントとして実施することができた。

また、平成19年度も引き続きこのプロジェクトを積極的に取り組むことにより、かわにしTMOを中心として、商工会、第3セクター、地域の関係者、川西市などの連携が急速に進み、プロジェクトの参加者により中心市街地の目標や具体的内容、取り組み方法などが熱心に話し合われ、中心市街地活性化協議会への設立に向けて大きく前進した。



中心市街地活性化協議会設立総会

3）旧基本計画の「活性化の基本理念」を受け継いで

新しい基本計画作成にあたっては、旧基本計画の「活性化の基本理念」である『個性あふれ、人にやさしい、にぎわいのあるまちづくり』を受け継ぐとともに、平成26年度を目標年度に、中心市街地に活気を取り戻す方策として、より確実な事業を選択し、実行することである。また、地域の関係者が協働して、まちの活性化のための取り組みを推進するための持続する力を蓄え、人材を育むことが必要である。

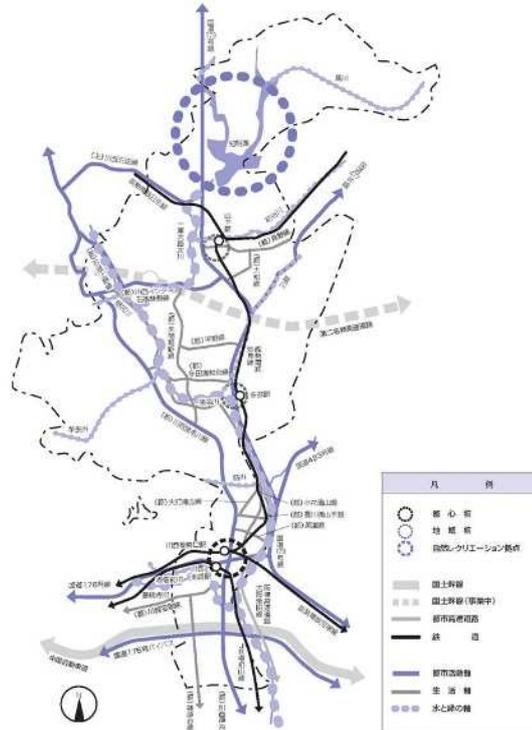
## [ 6 ] 川西市における上位計画

### ( 1 ) 第 4 次川西市総合計画

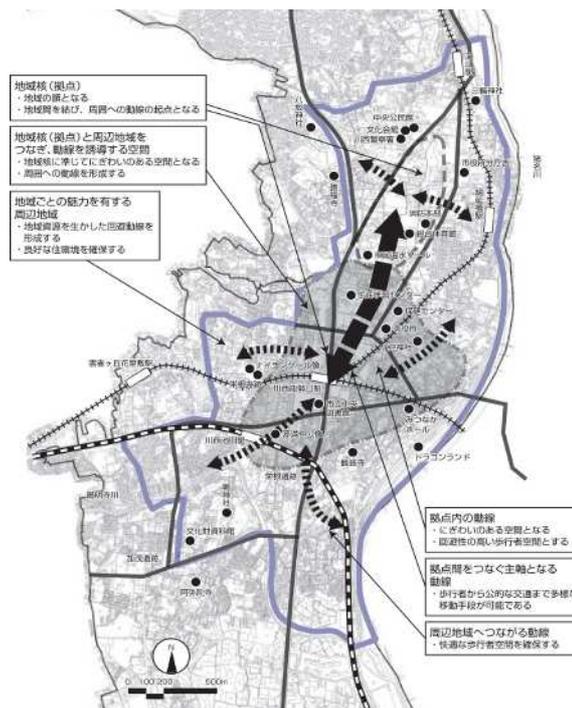
第 4 次川西市総合計画 『川西市こころ街計画 2012』( 計画期間平成 15 ~ 24 年 )

- ・ 駅周辺を核とした、商業・行政・文化・生活利便機能などの緊密な連携・有効活用
- ・ 都市再生・住環境保全を基調とした土地利用の誘導
- ・ 猪名川などの河川空間や南部段丘を水と緑の軸として活用
- ・ 生産緑地の保全や公園の整備による緑豊かな市街地の形成
- ・ 豊川橋山手線などの幹線道路の整備による東西・南北交通の円滑化

都市骨格構造図 ( 総合計画より )



中心市街地概念図 ( 総合計画より )



## (2) 川西市都市計画マスタープラン

関連計画である川西市都市計画マスタープランは、「都市整備の目標を明確化し、具体の土地利用や都市施設などに関する各計画相互間の調整を図り、その先導としての役割を果たすマスタープランの機能を担うもの」と位置付けられており、概ね20年後(土地利用の方針や都市施設の整備方針などに関しては概ね10年後)をめざして、平成9年3月に策定されている。

### 1) 中心市街地における土地利用方針及び都市施設整備方針

#### 将来の都市の骨格構造

- ・ 川西能勢口駅を中心とするエリアを阪神都市連携軸に通じる都心核とし、都心核から南北に都市軸を設けている。
- ・ 猪名川及び最明寺川を、猪名川緑水軸の一部とする。

#### 土地利用方針

- ・ 中心市街地は、概ね都心核及び商業系沿道サービス地、中高層住宅地、中低層住宅地、業務地区として区分される土地利用で構成される。
- ・ 事業所の集中する地域では、隣接住宅地と調和のとれた市街地形成を目標とする。

#### 都市施設整備の方針

- ・ 都市計画道路などについて、計画的整備を推進することとしている。
- ・ 都心核などにおける駐車・駐輪対策の拡充を図る。
- ・ 猪名川河川敷を活用した公園・緑道、親水性空間などの整備を推進する。
- ・ 中心市街地の一部に見られる生産緑地の保全を推進する。

### 2) 中心市街地に関する事項

中心市街地は南部ゾーンの都心核地域に区分されている。南部ゾーンのまちづくり方針のうち、都心核及び既成市街地、歴史の散歩道について、次の事項があげられている。

#### 都心核

- ・ 広域アクセス条件の向上と利便性を生かした、広域的な中心商業核の形成と文化、居住、交流などの複合する生活創造型の都心核の形成を図る。
- ・ 川西猪名川線、川西伊丹線、呉服橋本通り線は、シンボルロード的な整備を推進する。
- ・ 各種施設をはじめ、駅前広場、施設内広場、回遊動線における交流の場の創出を図る。
- ・ 都市景観形成条例に基づく景観形成(川西能勢口駅前地区)を推進する。

#### 既成市街地

- ・ まちづくりと連動した生活基盤整備と多様な住宅供給を促進する。
- ・ 主要生活通路などの基盤整備と土地の有効利用及び都市型住宅地としての環境の整備を推進する。
- ・ 住工混在地では、工場周辺の緑化と住宅地との共存環境の誘導を図る。
- ・ 東西方向における道路不足の解消を図るため、新設の東西道路の整備を検討する。

#### 歴史の散歩道

- ・ 鴨神社、春日神社に代表される歴史的イメージに、地区の持つ自然や現代の都市的施設を生かした歴史の散歩道の形成を推進する。

[ 7 ] 中心市街地の課題の分析と活性化の方向性

〈 川西市及び中心市街地の現況と問題点 〉

川西市の概要

本市は、大阪市や神戸市などの大都市に近く、自然に囲まれ、北部に良好な住宅団地を持つ住宅都市。また川西能勢口駅周辺では、全国に先駆けて市街地再開発事業を多く実施している。

中北部地域の住宅団地は古く、世帯の少子高齢化が進んでいる。社会経済状況の変化により、市全体の活力が低下している。川西能勢口駅周辺の一部に、用途が混在した木造密集地が存在する。

中心市街地の概況

中心市街地には、鉄道及びバスなどの公共交通機関が結節しており、公共・公益施設、商業施設、文化施設、高層マンションなどが広く分布するほか、川西能勢口駅周辺は通勤・通学者など多くの市民が利用している。

川西能勢口駅東地区第 2 工区の市街地再開発事業が遅れている。中央北地区の大規模な土地利用転換や、都市基盤整備が遅れている。歴史的・文化的資源や景観資源、社会資本・産業資源がうまく活用されていない。

地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

人口・世帯数は微増であるが、少子高齢化は進んでいる。また、商業については、通勤・通学者などの来街者が多いにもかかわらず、小売業の商店数、年間商品販売額の減少が続いている。

近隣市町に進出した大型商業施設の影響を受け活力の低下がめだつ。駅間の歩行者通行量が多いが、周辺を回遊していない。再開発ビルなどの商業施設が老朽化しているため、魅力に欠ける。

地域住民ニーズ等の把握・分析

通勤・通学者のほか、徒歩・自転車での買い物客が多く、日常的に中心市街地を利用しており、本市の経済活動の中心になっているが、魅力的な店舗や映画館などの娯楽施設が少ない。

利用目的は食料品などの買い物を中心であるため、滞留時間は約 1 時間程度が多くなっている。通勤・通学者や高校生や大学生をうまく取り込んでいない。楽しんでくつろげる施設が少ない。

これまでの中心市街地活性化の取り組み

平成 12 年度に旧基本計画を策定し、平成 15 年 7 月に TMO 構想を認定した。計画区域は約 300ha で、活性化のための 63 事業に取り組んできた。

地元住民などのコンセンサスが得られなかった。事業を行うための資金が不足した。駐車場整備事業については、大きな効果がみられた。

川西市における上位計画

第 4 次川西市総合計画『川西市こころ街計画 2012』において、中心市街地を都心核に設定するなど、中心市街地を含む南部地域の既成市街地を本市の未来をひらく拠点としている。

『川西市こころ街計画 2012』（計画期間は平成 15 年から平成 24 年）により、これまで以上に、市民と行政が協働して、パートナーシップによるまちづくりを推進していく。

〈 課題 〉

〈 課題 1 〉

商業施設の老朽化や、魅力的な施設が少ないなど、まちの活力は低下している。

〈 課題 2 〉

駅利用者が多いが、通過するまちとなっているなど、まちのにぎわいが減少している。

〈 課題 3 〉

市民サービス施設やまちの地域資源が活用されていない。

## 《 川西市中心市街地の課題の分析と活性化の基本的な方針 》

## 《基本方針》

### 中心市街地で買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のある商業環境をつくること

川西能勢口駅周辺は、市街地再開発事業などにより、様々な機能をもつ市街地として整備されてきたが、川西能勢口駅東地区第2工区については事業化が遅れ、駅東地区周辺の商業活力が低下している。

中央北地区は、中心市街地における大規模な遊休地であり、新しい地域交流拠点づくりによる土地利用の転換が求められている。再開発ビル内における空き店舗の顕在化により、小売業の年間商品販売額が低迷し、商業の活性化が進んでいないため、早急に再開発ビルをリニューアルするなど、魅力的な施設にする必要がある。比較的規模が小さな駐車場が市街地に点在していることや、駐車場の認知度の低さなどにより、効率的な運用が図られていないため、駐車場ナビゲーションシステムの構築を推進する必要がある。こども預かり所を開設するなど、買い物環境の整備が求められる。

《基本方針1》  
買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす

### 中心市街地に訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊しなくなる交流環境をつくること

中心市街地の歴史的・文化的資源や景観資源、社会資本・産業資源をうまく活用しながら、商業活性化などのための様々なイベントを行い、魅力的で活気のあるまちにすることが必要である。川西能勢口駅東地区第2工区の市街地再開発事業や再開発ビルのコミュニティプラザの設置などの施設整備による新しいにぎわい空間や、にぎわい創出イベント会場、その他の活性化のための様々なイベント会場を結び、人が集い回遊する仕掛けが必要である。川西能勢口駅と川西池田駅の乗降客数は約14万人であるが、街なかには立ち寄らないため、魅力的な商業空間の整備や新たに個性的なテナントを誘致するなど、「ついで買い」を誘発させる。コミュニティセンターなど市民への情報発信や、商業・サービス機能の更新や充実が求められている。商店会や地域住民など地域の関係者が協働して活性化のための取り組みを推進し、来街者がまちを回遊する仕掛けが必要である。

《基本方針2》  
訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊しなくなるまちをめざす

### 中心市街地の居住者や利用する市民にとって、安全で便利なサービス環境をつくること

共稼ぎ家庭に対する子育て支援やファミリーサポートの充実など、誰もが働きやすい環境の整備が必要である。中心市街地は、市役所や総合体育館、市民温水プールなどの公共・公益施設が広く分布しているが、これらの施設を結ぶネットワークが構築されていないことから、歩行者動線の整備やシャトルバス運行の検討を進める必要がある。みつなかホールや文化会館などの芸術・文化施設、街なかギャラリーなどが立地しており、様々な文化や芸術に触れやすい環境にあるが認知度が少ないため、案内マップなどの情報発信を促進する。中央北地区の新しいまちづくりにより、中心市街地の総合発展と中央北地区の生活環境改善のための取り組みを進める必要がある。

《基本方針3》  
居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす

## [ 8 ] 川西市中心市街地活性化に関する基本的な方針

本市は、開発行為等指導要綱に基づくまちづくりなどにより、良好な住環境の整備が進み、中北部地域において人口が増加したことや、南部地域の川西能勢口駅周辺地区における市街地再開発事業などにより、大阪都市圏に隣接する住宅都市として飛躍的に発展し、川西能勢口駅周辺には大型商業施設や高層マンションが建ち並び、まち並みが大きく変貌した。

一方、社会経済状況の変化や都市機能の郊外分散、近隣市町での大型商業施設の出店の影響を受け中心市街地の活力は低迷している。また、市街地再開発事業などにより整備された再開発ビルの老朽化が進んでおり、魅力的な商業空間が少なく、まちの商業力が低下している。そこで、中心市街地の活性化にあたっては、商業力が低下した中心市街地の活気を取り戻し、地域の関係者が協働して活性化のための取り組みを推進し、持続する力を蓄えながら活性化事業を実施することを基本に、中心市街地のめざすべき方向を協議し、活性化のための事業に取り組んでいく。このため、再開発ビルのリニューアルや、まちの再生のための各種取り組み、皮革工場跡地の土地利用の転換が図られる中央北地区整備事業、未着手の小規模再開発事業、商業活性化などのイベントを行いながら、魅力的な商業環境と交流環境、市民へのサービス環境の整備をめざす。

### ( 1 ) 中心市街地の課題の分析から示される基本的な方針の考え方

これまでにまとめてきた「中心市街地の概況」「中心市街地活性化の取り組み」を踏まえて、中心市街地の「まちの強み」と「まちの弱み」を整理し、さらに分析を加えることにより、本市の中心市街地のめざす方向を整理する。

#### 【まちの強み】

中心市街地は、市民や近隣市町から多くの来街者が訪れるまちである。  
広域公共交通機関の結節点であり、鉄道駅の乗降客数は約 14 万人である。  
大阪市や阪神間、神戸市へ向かう通勤・通学者が中心市街地に立ち寄る。  
川西能勢口駅周辺では、若者のストリートミュージシャンなどがめだつ。  
中心市街地は、家族連れや学生など様々な年齢層が楽しむイメージがある。  
道路拡幅事業や市街地再開発事業などにより都市基盤が整備されている。  
買い物や文化活動など、市民生活の拠点として利用されている。  
中・高層住宅や戸建て住宅が建ち並び、多くの市民が暮らしている。

#### 【まちの弱み】

中心市街地の商業施設は老朽化が進み、まちの魅力が低下している。  
中心市街地は魅力に乏しく、活気のないイメージがある。  
中心市街地は、魅力的な商業施設や、楽しめる娯楽施設が少ない。  
中心市街地を南北に走る幹線道路により、東側と西側の商業機能が連続していない。  
まちを宣伝するための情報発信が十分でない。  
街なかを回遊することや滞留するためのネットワークが構築されていない。  
駐車場へのアクセスが分かりにくい。  
中心市街地を活性化するためのまちづくり活動が連携していない。

### ( 2 ) 中心市街地活性化のキャッチフレーズとしてのイメージ

中心市街地のキャッチフレーズについては、平成 12 年度に策定した中心市街地活性化基本計画の基本理念である『個性あふれ、人にやさしい、にぎわいのあるまちづくり』を受け継ぎ、中心市街地が高感度な都市サービスを供給することや、本市の活発な文化・芸術活動をさらに

発展する意味から『ハート&アートな街 かわにしのせぐち』とする。

このキャッチフレーズは、中心市街地の活性化が単に商業の活性化だけでなく、ハートとアートを併せ持つ感性の高いまちづくり活動を展開していくものとして、中心市街地活性化協議会において協議されたものであり、市民の文化意識は強く、中心市街地に立地する文化施設などを活用して、文化・芸術活動の取り組みを推進していくことが求められている。中心市街地の主な文化施設である「みつなかホール」「文化会館」で開催されている主な自主行事と入場者数は表の通りである。また、「市民ギャラリー」で開催された主な展示会は、表の通りであり、年間を通しての市民ギャラリーの利用率は100%となっている。

みつなかホールで開催された川西市文化財団の主な自主行事（平成19年度）

行事のジャンル	公演月	公演名	定員(人)	入場者数(人)	集客率(%)
ベストクラシックス	6月	タリス・スコラーズ	480	477	99
音楽コンサート	7月	マ・シャオファイ(二胡)+リ・ポー(馬頭琴)	480	340	71
人形劇	8月	人形劇団クラルテ「11ぴきのねことぶた」	902	632	70
ベストクラシックス・	9月	大阪フィルハーモニー交響楽団	480	486	101
落語	10月	かわにし寄席 桂米朝一門会	480	483	101
音楽コンサート	10月	川西市三曲協会35周年記念 ~邦楽の宴~	480	368	77
音楽コンサート	11月	川西音楽家協会~名曲でたどる音楽の旅~	480	398	83
文化セミナー	11月	マッキ-のおしゃべりサロン	90	73	81
オペラ	12月	歌劇「ラ・ボエーム」(第1回)	423	424	100
オペラ	12月	歌劇「ラ・ボエーム」(第2回)	423	425	100
ベストクラシックス	12月	アマデウス室内オーケストラ+奥村愛(Vn)	480	329	69
文化セミナー	1月	和らいの芸術 ~狂言への誘い~	90	79	88
狂言	1月	大蔵流 茂山狂言 新春川西公演	480	464	97
映画	1月	みつなか名画シアター~不朽の名作(第1回)	480	441	92
映画	1月	みつなか名画シアター~不朽の名作(第2回)	480	298	62
舞踊	3月	川西市舞踊協会 ~早春の舞~	480	383	80
ベストクラシックス	3月	アルド・チッコリーニ ピアノ・リサイタル	480	477	99

資料：文化・国際交流課

文化会館で開催された川西市文化財団の主な自主行事（平成19年度）

行事のジャンル	公演月	公演名	定員(人)	入場者数(人)	集客率(%)
歌舞伎	6月	川西市歌舞伎鑑賞教室	1,077	841	78
吹奏楽	8月	プラス・フェスタ in KAWANISHI	1,077	673	62
音楽コンサート	2月	県民芸術劇場 歓喜の歌!「第九シンフォニー」	993	866	87

資料：文化・国際交流課

市民ギャラリーで開催された主な展示会（平成19年度）

展示会の内容	4月~6月	7月~9月	10月~12月	1月~3月	合計
絵画展	7	11	7	3	28
押花・手芸展	3	0	1	2	6
陶芸展	2	1	2	0	5
墨彩画展	1	0	0	4	5
写真展	1	2	0	1	4
書道展	0	1	2	1	4
生花展	0	1	0	1	2
その他の展示会	2	3	1	3	9
合計	16	19	13	15	63

資料：文化・国際交流課（使用期間は1展示会あたり5日間）

中心市街地においては、こうした文化・芸術活動を活発に取り組んでおり、今後も引き続き様々な文化・芸術に関する行事を強化していく。

一方、本市の第4次川西市総合計画『川西市こころ街計画2012』の中で示されている「めざす都市像」は、『わがまちと 実感できる 夢現都市 ~夢はかわにし~』を基本的な方針とし、市民が住んでいて良かった、ずっと暮らしていきたいと感じることができる都市をめざしている。また、市民の文化・芸術活動の意識の高さや宝塚造形芸術大学との連携が進んでいることから、川西市中心市街地活性化のキャッチフレーズを『ハート&アートな街 かわにしのせぐち』とし、中心市街地において、地域の関係者が協働して、ハートとアートを併せ持つ感性の高いまちづくり活動を展開していくものとする。

### (3) 川西市中心市街地活性化の基本方針

#### 1) 基本方針1

##### 【まちの強み】

中心市街地は、市民や近隣市町から多くの来街者が訪れるまちである。  
広域公共交通機関の結節点であり、鉄道駅の乗降客数は約14万人である。  
大阪市や阪神間、神戸市へ向かう通勤・通学者が中心市街地に立ち寄る。

##### 【まちの弱み】

中心市街地の商業施設は老朽化が進み、まちの魅力が低下している。  
中心市街地は魅力に乏しく、活気のないイメージがある。



##### 【基本方針1】

買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす

中心市街地には、阪急電鉄宝塚線及び能勢電鉄妙見線、JR福知山線、阪急バスなどの公共交通機関が集中することや、公共・公益施設、商業施設、文化施設、高層マンションなどが広く分布するなど利便性が高いため、居住人口が多いほか、中北部地域の市民、近隣市町からの来街者が訪れている。

また、中心市街地には、小戸疎水やせせらぎなどの水の資源、まちのシンボルとなっている藤の森稻荷やハナミズキの街路樹などの緑の資源が多く、水と緑による豊かな潤いを感じられるほか、絵画展、写真コンテストなど、市民参加の芸術・文化活動が活発に行われている。そのほか、商工会や地域の商店会、第3セクターなどによる季節のイベントが開催されており、人気の高い落語会や音楽コンサート、近郊の田畑で採れた新鮮で安全な野菜や果物を、安価で購入できる朝市など、多くの来街者でにぎわっている。



川西まつり

しかし、近年の社会経済状況の変化により、川西能勢口駅東地区第2工区の市街地再開発事業や中央北地区整備事業の事業化が遅れたため、居住環境の悪化や、防災面で課題が残る地区がある。また、完成後約20年が経過した再開発ビルのアステ川西やパーティ川西は、老朽化による様々な弊害が生じ、空き店舗が顕在化するなど商業力が低下している。そのほ

か、駐車場や駐輪場の改善、駐車場へのスムーズな誘導など、アクセシビリティの向上が求められている。

中心市街地は公共交通機関の結節点であり、市民や多くの来街者が集まっているにもかかわらず、商業ビルのテナントや沿道型の商店の魅力低下、老朽化への対応の遅れ、バリアフリー化への対応の遅れにより、うまく来街者を取り込めていない。また、通勤・通学者などの多くの駅利用者がまちに立ち寄ることが少ないため、商業環境やにぎわい空間の整備により、これらの人々の「ついで買い」を誘発することが必要である。

基本方針1を達成するにあたっては、若者をターゲットとした魅力的なテナント誘致と再開発ビルなどのリニューアル、中心市街地のバリアフリー化や、子育て世代をサポートする育児支援施設の充実などにより、あらゆる世代が楽しめることができる活気のあるまちをめざす。

## 2) 基本方針2

### 【まちの強み】

川西能勢口駅周辺では、若者のストリートミュージシャンなどがめだつ。  
中心市街地は、家族連れや学生など様々な年齢層が楽しむイメージがある。

### 【まちの弱み】

中心市街地は、魅力的な商業施設や、楽しめる娯楽施設が少ない。  
中心市街地を南北に走る幹線道路により、東側と西側の商業機能が連続していない。  
まちを宣伝するための情報発信が十分でない。  
街なかを回遊することや滞留するためのネットワークが構築されていない。



### 【基本方針2】

訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす

本市は大阪市や神戸市などの大都市に近く、北摂連山の自然に囲まれた住宅都市として、これまで人口は増加の一途をたどっており、中心市街地内の居住者は現在でも僅かであるが増えている。また、中心市街地は利便性が高いことや、様々な施設が建ち並んでいることから、多くの市民や近隣市町からの来街者が訪れ、特に川西能勢口駅と川西池田駅を結ぶ歩行者デッキでは、日常的に多くの人々が往来している。

しかし、歩行者デッキの歩行者通行量は多いものの、中心市街地に魅力的な施設が乏しいことや、地上部分での魅力が少ないこと、まちを回遊する動線が分かりにくいこと、駐車場の入口が分かりにくいことなど、市民や他市からの来街者がまちを回遊し滞留することが少ない現象が顕著に表れている。

中心市街地は交通結節点であるため利便性が高い地域であり、通勤・通学や買い物だけでなく、市民の文化・芸術活動が盛んであり、文化的な取り組みに対する関心は高い。しかし、文化的な展示スペースの不足や、施設への動線のわかりにくさ、魅力的なイベントが少ないことなど、街なかへの回遊ができていない。

基本方針 2 を達成するにあたっては、公共スペースのある再開発ビルのリニューアル、バリアフリーの推進、若者に人気のあるダンスコンテストや幅広い年齢層に人気の高いストリート落語、まちの居住者が利用している朝市などのイベントにより、回遊性を高めるなど、あらゆる世代が楽しみながら回遊したくなるにぎわいのまちをめざす。



JAM・HOP・CARNIVAL



みつなかホールでの市民オペラ

### 3) 基本方針 3

#### 【まちの強み】

道路拡幅事業や市街地再開発事業などにより都市基盤が整備されている。

買い物や文化活動など、市民生活の拠点として利用されている。

中・高層住宅や戸建て住宅が建ち並び、多くの市民が暮らしている。

#### 【まちの弱み】

駐車場へのアクセスが分かりにくい。

中心市街地を活性化するためのまちづくり活動が連携していない。



#### 【基本方針 3】

居住者や利用する市民にとって、安全で便利なまちをめざす

中心市街地には、公共・公益施設が集積しているため、生活者にとっては利便性が高い。また、阪神間でも人気の高い大型商業施設があり、公共交通機関の結節点であることから買い物客にとっては便利で買い物がしやすく、百貨店や専門店、量販店、沿道の商店が揃っていることから、多くの利用者が往来している。また、人口も僅かではあるが増加している。

しかし、新住民が増加し、川西らしさや地元への愛着が低下していることや、公共・公益施設への動線が分かりにくいこと、展示場やホールなど文化活動の発表スペースの不足、育児支援機能の充実など、公共サービス機能の充実が必要である。また、将来の高齢化社会を見据えたあらゆる世代にとって安全で便利なコンパクトシティの推進と並行して、地元で確実に買い物をしてもらえる需要を増やしていくことが必要である。

基本方針 3 を達成するにあたっては、川西らしさを内外に発信するため、地元製品の販売や地元産品を活用した商品の開発・PR の推進、市街地再開発事業などによる住宅整備などにより、高齢化社会を見据えた街なか居住を誘導するなど、市民や住民の満足度を高めるとともに、基本方針 1 の「買い物をする人や商売をする人にとって、魅力的で活気のあるまちをめざす」ことや、基本方針 2 の「訪れる人や暮らす人にとって、楽しみながら回遊したくなるまちをめざす」ことの目標達成にも寄与し、あらゆる世代にとって安全で便利なまちをめざす。

中心市街地活性化のために取り組む事業

番 号	事業名	基本方針 1	基本方針 2	基本方針 3	
市街地の整備改善に関する事業	01	川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業			
	02	中央北地区特定土地区画整理事業			
	03	都市計画道路火打滝山線東側歩道拡幅事業			
	04	都市計画道路せせらぎ遊歩道新設事業			
	05	回遊動線形成促進事業			
	06	川西能勢口駅東整備構想策定事業			
	07	みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業			
	08	みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討			
都市福利施設の整備に関する事業	09	情報配信システム構築事業			
	10	ファミリーサポートセンター事業			
	11	一時子ども預かり所開設事業			
	12	地域子育て支援事業			
	13	市立中央図書館子ども読書サポーター事業			
	14	コミュニティ・スペースにぎわい空間整備事業			
15	交通バリアフリー重点整備地区基本構想に基づく道路特定事業				
街なか居住に関する事業	01	川西能勢口駅東地区第2工区優良建築物等整備事業(再掲)			
	02	中央北地区特定土地区画整理事業(再掲)			
	05	回遊動線形成促進事業(再掲)			
	16	パーティ川西リニューアル支援事業			
商業の活性化に関する事業	07	みつなかホール周辺(仮称)花の道及び駐車場整備事業(再掲)			
	09	情報配信システム構築事業(再掲)			
	17	川西まつり			
	18	猪名川花火大会			
	19	源氏まつりミニイベント			
	20	みつなかオペラ			
	21	アステ川西地下1階リニューアル事業			
	22	アステ川西大規模改修事業			
	23	パーティ川西A&Hデザイン構築事業			
	24	アステ川西バイク・自転車駐輪対策事業			
	25	かわにしにぎわい創出イベント事業			
	26	かわにし朝市			
	27	光のオブジェ展			
	28	JAM・HOP・CARNIVAL			
	29	アステかわにし繁昌亭			
	30	夢宿フォトコンテスト			
	31	花と緑のアステ川西プロジェクト			
	32	イチジクの即売会			
33	桃の即売会				
34	かわにし寄席				
35	金太郎プロジェクトの実施				
交通に関する事業	08	みつなかホール・ドラゴンランドへの動線整備計画の検討(再掲)			
	36	駐車場ナビゲーションシステム構築事業(その2)			
	37	川西能勢口駅周辺と中央北地区を回遊するシャトルバス運行の検討			
合 計	37事業(合計のうち、基本方針1と基本方針2との重複は6事業)	12	26	5	

#### (4) 中心市街地活性化の取組み展開のイメージ

今後 5 年間で中心市街地活性化の効果を創出するためには、平成 22 年度から、地域住民、市民、事業者、行政などが連携し、様々な取組みを連鎖的に実施することが求められる。

そこで、計画期間を 3 期に区分し、それぞれのステップにおける目標を定め、活動に関わる全ての実施主体がこの展開のイメージを共有するなど、的確で効果的、戦略的な取組みが求められる。

以下に、ステップ ~ における、活性化に向けた取組みの展開イメージを示す。

##### 1) ステップ (平成 22 年度)

川西能勢口駅と J R 川西池田駅周辺におけるにぎわいの“核”の創出

約 14 万人の乗降客が利用する両駅間のペDESTリアンデッキ上は、中心市街地において、唯一歩行者通行量が減少していない区間である。また、ストリートパフォーマーやミュージシャンの活動も見られる。

これらの現状を踏まえ、両駅間を移動するための空間として位置付けるだけではなく、地域住民と来街者との交流や、ストリートパフォーマーやミュージシャンによるパフォーマンスへの支援などを行いながら、歩行者が足をとめたくくなるようなにぎわいの核の創出をめざす。



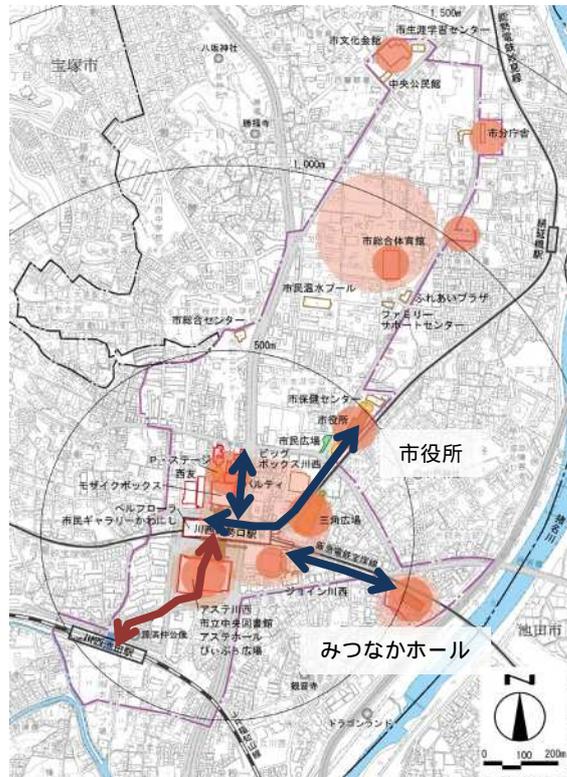
川西市中心市街地の様子



## 2) ステップ (平成 23~24 年度)

### ステップ による“核”と市役所やみつなかホールをつなぐ“軸”の形成

ステップ では、ステップ によりにぎわいが創出された川西能勢口駅周辺の“核”と、市役所やみつなかホールなどとの間にぎわいの“軸”を形成し、活性化を進めることが有効であると考えられる。このため、この“軸”における歩行者動線ネットワークの形成や、市役所及びみつなかホール周辺でのにぎわいイベントの連続的な開催などによるにぎわい創出に係る取組みを継続的に実施し、中心市街地での回遊性・滞留性の創出をめざす。



## 3) ステップ (平成 25~26 年度)

### 川西能勢口駅周辺におけるにぎわいの軸の更なるネットワーク化と中央北地区への取り組みの展開

川西能勢口駅周辺におけるにぎわいの軸の更なるネットワーク化を図りつつ、駅周辺で、日常的に活性化への取組みを実施する。また、新たに文化会館や総合体育館周辺でのにぎわいイベントを開催しながら、川西能勢口駅周辺及び中央北地区を含む約 80ha 全域で、連鎖的な活性化の取組みを行い、活性化区域全体での持続的なにぎわい創出をめざす。

